

病理的脊柱側彎

ス(後章ヲ看ヨ)。按摩及入浴ノ茲ニ殊效アルハ發育後期ニ發生スル常習性側彎ニ於ケルカ如シ。

尙僂病ノ少年期眞性(常習性)側彎ニ重大ノ關係アルハ猶ホ外翻脚ノ發生時ニ於ケルカ如シ(ミクソリツツ、キルミツソソ)。

(三)病理的脊柱側彎トハ脊柱及胸廓ノ疾患其原因ト爲リテ發生シタル側彎ノ總稱ニ外ナラス、中ニ就キ脊椎及靱帶板ノ炎症(骨瘍)ニ續發シタル側彎ハ後彎ヲ兼スルヲ幾ント常トシ、而シテ後彎ハ脊柱變形ノ主要部分ヲ爲ス(後側彎 Kypho-scoliose)。其他例ハ腰部脊柱ニ發生シタル變形性椎骨炎、火傷後、蜂窠織炎等ニ發生シタル背筋ノ痠痕収縮(痠痕性側彎)、缺損ヲ貽セル肋骨及胸骨ノ骨瘍、曠日悠久シ胸廓痠痕収縮ノ爲メ健側ニ偏軟シタル膜胸等ニ續發シタル側彎モ亦茲ニ屬ス。尙ホ記載スヘキハ斜頸ニ於テ脊椎ノ發育不等ナルニ由リ發生シタル頸部脊柱ノ側彎及麻痺例ハハ肩胛筋並ニ背筋ノ偏側麻痺ニ續發シタル側彎トス、就中麻痺ニ續發シタル側彎ハ幾分ハ脊柱若クハ骨格ノ營養神經性障礙ニ關スルナリ(モルフィン)。

是等ノ諸病理的側彎ハ多クハ輕度ニ一時性ニ過キササルヲ屢之アリ、縱令常在スルニ至ルモ其固定スルハ比較的ニ晚シ。

病理的側彎ノ療法ハ原因ヲ處スルヲ第一トス、則チ痠痕性側彎ニ於テハ痠痕ヲ截割シ缺損部ハ近傍ヨリ採リタル有莖皮瓣ヲ以テ蓋ヒ若シ景況恰好ナルキハ持續性牽引

外傷性脊柱側彎

平均性脊柱側彎

ヲ試ムヘシ。而シテ側彎ハ常習性側彎ノ條下ニ詳説スル方法ニ隨ヒ治療スヘシ。

(四)變形ヲ貽シテ脊柱折傷及還納セザル脊柱脱臼及亞脱臼ニ續發スル外傷性脊柱側彎ハ極メテ稀有ナリ。又折傷後ニハ脊柱後彎性ニ屈曲ス、則チ脊柱矢狀平面内ニ於テ彎曲スルヲ屢ナリ(脊柱ノ損傷及脱臼ヲ參照セヨ)。

(五)平均性脊柱側彎ハ下肢ノ長短左右相同シカラサルト其他ノ官能障礙トニ由リテ發生スルモノニシテ其主因ハ例ヘハ股關節及膝關節ノ攣縮、骨盤ノ原發性變形等ニ於テ偏脚短縮スルニ由リ骨盤傾軟スルニ在リ。一時性ノ側彎ハ急性僂麻質斯性筋炎ニ於テ間、見ル所ナリ、是レ患者發熱シタル筋肉ヲ弛緩セントノ不識不知其脊柱若クハ骨盤ヲ健側ニ傾斜スルカ故ナリ。坐骨神經痛ニ發スル多クハ輕微ニ亦一時性ノ側彎(ニコ

第三百二圖

平均性 脊柱側彎
變形發生
ノ理ヲ
示ス

ラドニー)モ同一ノ原因ヨリ起ルモノニ則チ此ニ於テモ患者ハ脊柱ヲ彎曲シ或ハ骨盤ヲ傾斜シテ炎症性ニ腫脹シタル坐骨神經鞘ヲ弛緩セシメント欲ス。此平均性側彎發生ノ理ハ第三二圖ニ注目スルキハ容易ニ了解スルヲ得ルナリ、則チ骨盤傾斜シタル片ハ(イロハ)ナル骨盤橫軸ハ一側ニ偏欹スヘシ、然ルキハ軀幹ノ平均ヲ保タシカ爲メ腰部脊柱ハ低位ノ骨盤側ニ彎曲セサル可ラス。同一ノ理ニ由リ胸部脊柱ハ對側ニ轉シ又頸部脊柱ハ腰部脊柱ト同側ニ彎曲ス。此方法ニ由リテ較著ナル側彎發生スルヲアリ、然レモ其骨ノ續發性變形ノ爲メニ固定スルハ頗ル晩キヲ常トス、骨ノ發育完成シタル後起リタル側彎ニ於テ殊ニ然リ。

平均性側彎ノ豫後ハ佳良ナリ且ツ例ヘハ短縮シタル下肢ノ靴底ヲ厚フスルカ或ハ膝關節、及股關節ノ彎縮ヲ解キテ骨盤ノ偏欹ヲ除クキハ之ヲ豫防シ或ハ療治シ易シ。

(六)最モ樞要ニシテ且ツ發生頻繁ナル脊柱側彎症ハ則チ常習性脊柱側彎ニシテ其本態ハ約說スレハ脊柱ノ負擔性變形ト看做スヘキモノトス。此症ハ幼稚ノ時屢、尙佝僂病ニ罹リタル八乃至十乃至十六歳ノ筋肉薄弱ナル萎黃病性ノ少女ニ殊ニ多ク見ル所ナリ、而シテ其發生ノ理ハ外翻脚ニ同シ(ミクリツツ、キルミツン)。

常習性脊柱側彎ノ發生

常習性脊柱側彎發生ノ理ニ就テハ往時諸説紛々タリキ就中筋原説ハ一時世ノ信奉シタル所ナリ、是レ誤テ常習性側彎ハ原發性筋縮ニ外ナラズト信シタルカ故ナリ、當時此説ニ基ツキ側彎ノ原因ニ於テ原發性筋縮シタリト信シタル筋肉及腱ヲ截斷セシト雖モ固ヨリ之ニ由リ疾患輕快スルヲナカリシ。ストローマイエルノ説ニ據レハ呼吸ノ際側彎ノ前大鋸筋他側ノ同名筋ヨリ強盛ニ動作スルハ右側性胸部側彎ノ發生上關

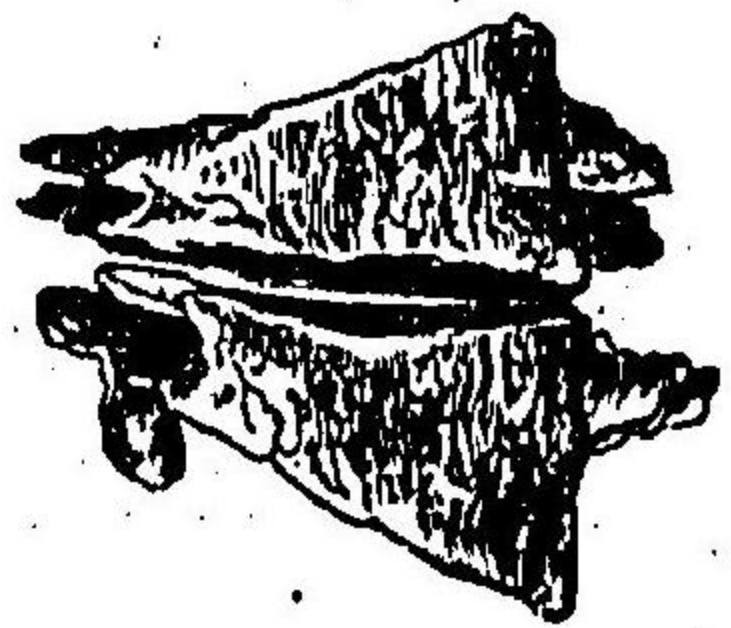
常習性脊柱側彎ニ於ケル解剖的變化

係スル所大ナラズトセスト謂フ。フォン、レッセルハ橫隔膜ノ動作ハ左右同シカラズト爲シ動物ニ就テ偏側ノ橫隔膜神經ヲ截斷シ以テ試験的ニ脊柱ノ側彎ヲ誘起セントセリ。又ヒヨウタルハ常習性側彎ノ本態ハ肋骨ノ發育的壓迫左右均等ナラサルニ在リト信セリ。之ヲ要スルニ側彎ハ時トシテ是等ノ原因ニ由リテ發生スルヲアルハ爭フヘカラスト雖モ其主因ハ寧ロ他ノ事情ニ在ルナリ、而シテ吾人ハフォン、レッセル、ロークセル等ニ同シク常習性脊柱側彎ハ則チ原發性負擔性變形ニ外ナラズト考フルナリ。

常習性側彎ニ於テモ脊柱ヲシテ其鉛直ナル縱軸ヲ離レテ側方ニ轉セシムル者ハ骨盤ノ偏倚ナルヲ亦平均性側彎ニ於ケルカ如シト爲スハ頗ル近シ(第三二圖ヲ看目)。此骨盤偏倚ハ患兒殊ニ校舎ニ於テ筆記ノ際斜メニ坐スルカ故ニ今普通ノ校机ハ實ニ弊害アリトス、然レモ一定ノ職業、脊柱ノ彎曲ヲ策子タル持續性骨盤偏倚ノ原因トナルヲ屢、之アリ此ニ於テハ側彎ハ則チ職業病ト看做サル可ラス、例ヘハ環提學者、偏側ノ肩ノ重荷ヲ擔フ者鐵工裁縫師、靴工等ニ發スル側彎ノ如キ是ナリ。蓋シ是等ノ狀況ノ下ニ在テハ脊柱ハ骨盤ノ偏倚即チ姿勢傾斜ノ爲メ側方ニ彎曲轉シ骨障礙發スルニ至リテ制メテ止ムモノトス。今夫レ骨盤偏倚ハ亦常習性側彎ノ主因ナリト云ハル既チシテ妥當ナラシメハ側彎ノ初期ニ發スルモノハ諸家ノ唱ヘタルカ如ク原發性腰部側彎ニ胸部脊柱ノ側彎ハ將來ニ及ンテ始メテ著明ト爲ル。斯ノ如ク脊柱ノ負擔絶エス左右不同ナルキハ椎體及全胸廓ノ發育漸ク均齊ヲ失ヒ隨テ側彎ハ持續性ト爲リ脊柱ハ其異常位置ニ固定スルニ至ル。而シテ薄弱ナル筋肉、從順ナル靱帶尙ホ存在スルカ或ハ業ニ經過シタル尙復病、萎黃病、貧血等ハ俱ニ側彎ノ發生ヲ助長ス。

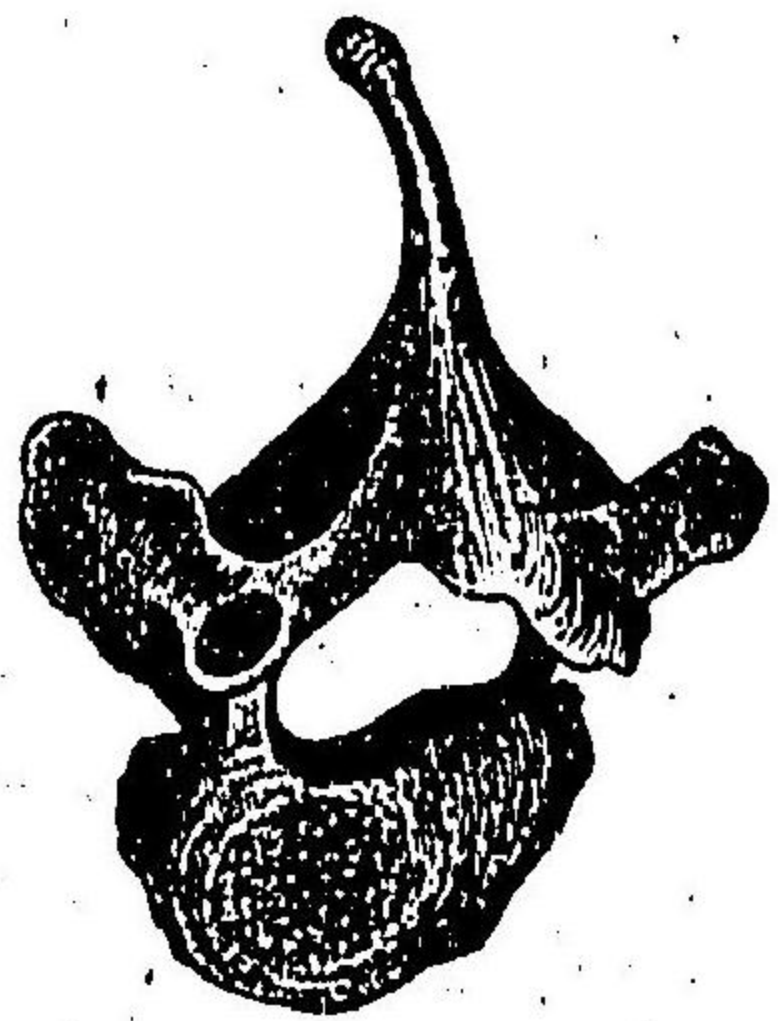
悠久シタル脊柱側彎ノ解剖的變化ハ次ノ如シ即チ側方ニ轉移シ且ツ其縱軸ヲ廻轉セル椎骨ハ負擔不同ナルカ爲メ其生長亦不等トナル隨テ側彎性椎骨ノ形狀ハ著シク變化シ椎骨ハ側彎ノ凹側ニ向ヒテ傾斜シ即チ楔狀ト爲ル(第三三圖)、是レ骨質ノ生長凹側ニ於テハ負擔強大ナルニ由リ障礙セラレ凸側ニ於テハ之ニ反シ旺盛スルカ故ナリ。而シテローレンツノ説ニ據レハ凹側ニ向ヒタル椎骨部分ノ萎縮ハ脊ニ椎體ノミナラ

圖三百三第



楔狀ニ傾
斜シタル
二個ノ側
變性椎骨

圖四百三第

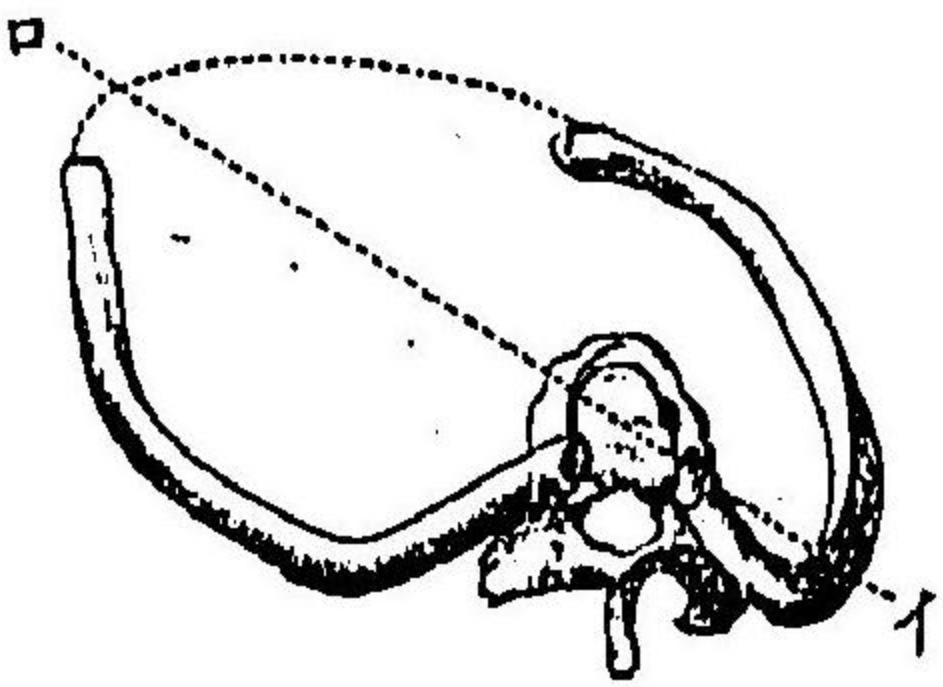


脊柱側彎
ニ於ケル
椎骨ノ偏
欹(松葉)

ス弓根及關節突起ニ於テモ亦發見スルヲ得ルト云フ。然レモ椎骨ハ凹側ニ向ヒタル椎體中部及椎弓ノ壓迫性萎縮ノ爲メ楔狀ト爲リ傾斜スルノミニアラズン兼チテ斜形ヲ爲シテ其縱軸ヲ迴轉セリ(第三百四圖)。此椎骨ノ捻振即チ弓形ハ主トシテ上段ニ配載シタル弓部骨端ノ生長不同ナルニ由ルナリ(ローレンツ、ニコラドニー)。又側彎性椎骨ノ骨體維上肥ノ變化ニ準シテ通常ノ如ク縱形ヲ爲サズン斜メニ弓狀ヲ爲セリ(フマン、フォルクマン、ローレンツ)。椎孔ハ弓部骨端生長不同ナルカ爲メ亦變化セルハ贅スルヲ要セサル所ニシテ其廢棄側彎ノ凸側ニ向ヒタル椎骨ノ萎縮側ニ於テハ小ナリ(第三百四圖)、其他棘狀突起ハ時シテハ凹側又時トシハ凸側ニ彎曲セリ。

側彎ハ漸次ニ其異常位置ニ固定スルニ至ル、此固定ハ上段開載シタル椎骨變形ニ由ルモノニシテ初級ト筋肉トニ關係ナシ、而シテ椎骨是等ノ變形ヲ呈スルニ及ンテハ既ニ側彎ノ完全治癒得テ留ム可ラスノ只變形ノ増進ヲ妨クルヲ得ルノミ。側彎ノ可及的長期ニ治療セサル可ラサルハ之カ爲メナ

圖五百三第



脊柱側彎
(右側性)
ニ於ケル
胸廓ノ偏
欹

然ルモハ變形獨リ椎骨ニ止マラス全胸廓殊ニ肋骨ニ於テモ亦發スルニ至ル、就中肋骨ノ形狀並ニ位置ハ特異ニ變化セリ、則チ側彎凸側ノ肋骨ハ後側曲部ニ當リテ強ク彎屈シ之カ爲メ脊彎ノ凸側ニハ所謂後肋骨(Inner Rippenbuckel)發生ス(第三百五圖イ)。其他凹側ノ肋骨ハ壓縮セラルト雖モ凸側ノ肋骨ハ潤ク離開セリ。又凹側ニ於テハ胸廓後方ニ陷凹スレモ其前側ニハ斜メニ凸側ノ後肋骨總背ト相對シテ凹側ノ前肋骨總背アリ(第三百五圖ロ)。第三百五圖ニ著目スルモハ明瞭ナルカ如ク側彎性胸廓ハ著シク傾斜シ凸側胸中ノ容積ハ諸經路ヲ縮小シ凹側ノ容積ハ増大セリ胸骨ハ對側ニ移動シ例ヘハ右側性胸廓側彎ニ於テハ左側ニ轉移スル(第三百五圖ニ示スカ如シ)。而シテ胸腔内臟即チ肺臟心臓及大血管ハ此胸廓ノ變形ニ應シ多少其位置ヲ變セサル可ラス、即チ是ニ據リ高度ノ側彎ニ於テ呼吸及心臟動作ノ機能障礙發セサル可ラサルノ理釋然タルヘシ。

骨盤ハ高度ノ經久性側彎ニ於テハ亦傾斜シ左右均齊ヲ失フニ至ル、是レ主トシテ胸骨變形ニ由ルカ爲メナリ。此ノ骨盤ハ胸廓ノ偏欹傾斜ト相反セリ、例ヘハ右凸性胸廓側彎ニ於テハ骨盤ノ左斜徑續延長セリ。

總テ高度ノ胸廓脊柱側彎ニ於テハ軀幹ノ平均ヲ得シカ爲メ腰部並ニ頸部脊柱反對側ニ彎曲スルハ既ニ上段ニ開載シタル所ナリ。

脊柱ノ靱帶及筋肉ニハ複發性變化アルノミ。則チ凸側ノ靱帶及筋肉ハ延長シ凹側ニ於テハ短縮セリ、又總テ高度ノ經久性側彎ニ於テハ兩側ノ筋肉萎縮シ且ツ其動作發絶セルニ由リ多少脂化セリ、固定シタル側彎ニ於

脊柱側彎ノ症候及經過

テ殊ニ然リ。
脊柱側彎ノ症候及經過ハ三期即チ三度ニ區別スルヲ得ヘシ、(一)尙ホ未タ著明ナル變形アラサルモ姿勢既ニ傾斜セリ、(二)椎骨捻振ヲ起シ肋骨龜背ヲ生ス、(三)側彎固定ス則チ是ナリ、

脊柱側彎ノ發生ハ極メテ緩慢ナリ、今凡ソ八乃至十乃至十二歳ニ筋肉薄弱ナル萎黃病性少女ニ發シタル側彎ノ定型症ヲ假リテ之ヲ例センニ其初發ノ症候ハ例ヘハ右凸性胸部側彎ニ於テハ肩胛(右)高舉シ肩胛板(右)突出スルニ在リ。其他腹部(左)ハ少シク隆起シ胸腹ノ側部(左)ハ較、陷凹セリ、腹部ノ傾斜ハ原發性腰部側彎ニ於テハ蚤クヨリ存在セリ、而シテ初期ニ於テハ腋窩ヲ把捉シテ小兒ヲ懸吊スルキハ變形消散シ易シ。

將來ニ及ンテハ脊柱及胸廓ノ變形漸ク完成スルニ至ル。之ニ在リテモ亦發生最モ頻繁ナル側彎症即チ右側性胸部側彎ヲ以テ例ト爲スキハ則チ棘狀突起ハ漸々右方ニ偏倚シ凸側ノ後肋骨龜背ハ益、著明ト爲リ。左(凹)胸半ノ後側面ハ著シク扁平ニシ、凹沒シ、胸骨ハ左方ニ移リ右肩胛ハ屹立シ且ツ前方ニ挺出セリ。又腰部及頸部脊柱ニハ明カニ代償的彎曲ヲ認ムルヲ得ヘシ而シテ右胸腹側部ハ腰部左彎ノ爲メ陷凹シ右腹部ハ更ニ挺出シ腰部脊柱ノ左(凸)側ニ當レル部ニハ相當ノ穹隆視觸スルヲ得ルニ至ル。總テ前後ノ肋骨龜背著明ト爲リタル側彎ハ諸般ノ療法ヲ試ムルモ決シテ其效ナク、又

斯ノ如キ小兒ヲ懸吊スルキハ脊柱ノ側彎幾分ハ消散スヘシト雖モ前後ノ肋骨龜背及胸骨ノ移轉ハ多少遺殘ス。

變形ノ完成スルハ極メテ緩慢ナルヲ常トス、然レモ生長疾速ナル少女ニ於ケル經過ハ比較的ニ迅カニ至ルニ當リ有力ニ且ツ適當ナル療法ヲ施スニアラサレハ既ニ數月ニノ高度ノ側彎發生スルヲ間、之アリ。

後期ニ及ンテハ側彎、上條記載シタル進行性ノ椎骨及胸廓變形ノ爲メ固定シ則チ側彎定在性ト爲ル(第二百九十九圖乃至第三百一圖ヲ見ヨ)、然レモ此側彎ノ固定即チ定在ハ側彎ノ時期ヲ擇ハスシテ發ス、側彎ニ輕重アルハ之カ爲メナリ。

胸腔内臓ハ間、著明ニ胸廓ノ變形ニ適合シテ敢テ特殊ノ障礙ヲ起スヲ無シト雖モ重症ノ側彎ニハ必ス相當ノ呼吸困難及血行障礙アリ、ブローウエーノ説ニ心臟病ト卒中トハ側彎患者ニ最モ頻發スル死因ナリト云フ。時トシテ神經根及陷凹シタル胸半部ノ肋間神經壓迫セラル、カ爲メ一種ノ疼痛發スルヲアリ。側彎性婦人ノ分娩機能ハ骨盤狹窄ノ爲メ多少妨害セラル。

食道ハフオン、ハッゲルノ説ニ據レハ決シテ脊柱彎曲ノ影響ヲ被ムルモノニアラスト然レモ重症ノ側彎ニ於テハ食道多少彎曲シ或ハ屈折セリ、嚥下作用ハ此食道屈折ノ爲メ敢テ妨害セラレスト雖モフオン、ハッゲルハ強硬ナル咽頭消息子ヲ送入スルニ常非ノ障礙ニ逢着スルヲアリト謂ヘリ。

脊柱側彎ノ豫後

脊柱側彎ノ豫後ハ既ニ十分ニ示セリ、要スルニ其豫後ハ適當ノ療法ヲ行フニ愈々
營養愈佳良ナルルハ益佳ナリ。而シテ疾患第一期即チ初發ニシテ患者ヲ懸吊スルル變
形全ク消散スル間ハ尙ホ全治スヘシト雖モ第二期ニ至リ己ニ前後ノ肋骨龜背發生ス
ルニ及ンテハ療法ニ由リテ側彎靜止シ其増進ヲ防遏シ得タルルハ足レト爲サ、ル
可ラス。既ニ側彎固定シ且ツ重症ナルルハ療法無効ニシテ只僅カニ其進行ヲ妨害スル
カ或ハ緩慢ナラシムルノミ。

脊柱側彎ノ診斷

蚤期ノ診斷ハ極メテ樞要ナリト雖モ惜哉患者ノ診ヲ索ムルヤ多クハ其時期晚キニ失
セリ。且ツ初期ノ側彎ハ多數ノ自宅開業醫ノ輕視スル所トナリ加之其父母並ニ患者
ハ屢々本病ハ成長スルニ隨ヒ自ラ消散スヘシトシテ其堵ニ安スルハ俱ニ嘆クニ堪ヘタ
リ。而シテ其診斷ハ毎ニ可及的注意シテ斷定セシムルハアラス、則チ患者ヲ裸體ト爲シ望
診、觸診及測診ヲ行ヒ以テ側彎ノ強弱ヲ測リ、又腋窩ヲ把リテ患者ヲ懸吊シ或ハ「セ
ール」氏裝置ニ懸垂シ又或ハ側彎ノ凸側ヲ壓迫シテ以テ變形消散スルヤ否ヤ亦幾何
許消散スルヤヲ決定セサルヘカラス。又毎ニ骨盤ノ位置ニ留意シ且ツ下肢ノ長短及
左右等シキヤ否ヤヲ検査スヘシ。側彎ノ強弱ハ脊柱ノ偏倚、後肋骨龜背ノ高低則チ概
スルニ胸廓ノ變形ヨリ之ヲ定ムルヲ得ヘシ。椎骨棘狀突起ノ偏倚ハ屢々人ヲ詐ク「ア
ル」ヲ以テ此ニ應用シ難シ。側彎ニ於ケル脊柱ノ偏倚ヲ計測スルニハ「ハイネーケ」ニ倣
ヒテ懸垂桿ヲ用キルヲ頗ル適當ナリトス。則チ骨盤ノ周圍ニ三角形ノ金屬板ヲ具ヘ

脊柱側彎ノ豫後
所稱常習性脊
柱側彎ノ療法

タル帶ヲ扣着シ金屬板ノ尖端ヲシテ臂破裂ノ上際ニ當ラシム。金屬板ニハ護謨紐條
アリ第七頸椎ニ送致セラル。此裝置ヲ應用スルニ當テハ先ツ鉛筆ヲ以テ棘狀突起ニ
標點ヲ附スヘシ。脊柱ノ偏倚ヲ計測スルニハ懸垂桿ヲ用ユ是レ鉛直ニ帶板ヨリ岐レ
タル桿條ニ固着シ仙迷ニ區別シ頭部ニ達スルモノトス。
側彎ヲ精測セントシテ頗ル複雑ナル裝置ヲ發明セシモノアリ、今茲ニハ「ビュリッ
ン」氏裝置、シ「ンク」氏「トラコグラフ」、頗ル適當ナル「ミクリッ」氏側彎計及「シ
ョール」氏胸象描寫器ヲ掲クルノミ、但シ是等ノ裝置ハ「シライベル」、ホ「フ」等ノ小兒畸形治療の
外科總論並ニ各論中ニ詳述セリ宜シク就テ見ルヘシ。
胸廓ノ變形ハ屈撓スル鉛桿ヲ胸圍ニ纏ヒ之ヲ紙面ニ騰寫スルルハ最モ簡易ニ觀察ス
ルヲ得ヘシ、此法ハ亦側彎ノ偏倚ヲ測定スルニ用キルヲ得ヘシ。
脊柱側彎ニ所謂常習性脊柱側彎ノ療法、先ツ適當ナル食物ト善良ナル空氣トニ注
意シ按摩、體操、游泳等ヲ行ヒテ體質殊ニ筋肉ヲ強壯ト爲シ以テ之カ發生ヲ豫防スル
ハ極メテ樞要ナリ。筋肉薄弱ニシテ側彎ノ傾向アル小兒ニハ適當ナル校机ヲ擇ヒ且
ツ嚴ニ該兒坐居ノ際其姿勢ヲ眞直ナラシメ且ツ久坐セサラシムヘシ。斯ノ如キ側彎
ノ素質アル小兒ハ毎日例ヘハ一時間或ハ更ニ永ク硬固ナル臥席上ニ平臥セシムヘ
シ。フ「ール」ナル、ク「ン」ツエ及「エリス」マン、スタ「ッ」フェル、ロー「レン」ツ等ハ適當ナル校机ヲ
考案セリ。之ニ據レハ坐板ト臺板トノ距離ハ兒童ノ大小ニ適合セシメ即チ童兒ニハ

凡ソ身長ノ八分一、童女ニハ七分一ナラシメサルヘカラス、又坐板ニハ後方ニ反跳スル凭欄ヲ付スルヲ要ス。所謂直保器ハ肩胛ヲ後方ニ牽製スルモノニシテ、效益尠ナキノミナラス脊柱ノ生理的後彎之カ爲メ消散シ且ツ脊柱ノ外轉及廻轉助長セラル、ヲ以テ寧ロ害アリトス。蓋シ脊柱ノ生理的後彎ハ一定度ニ至ル迄ハ側彎ノ發生ヲ防止ス(セール)。

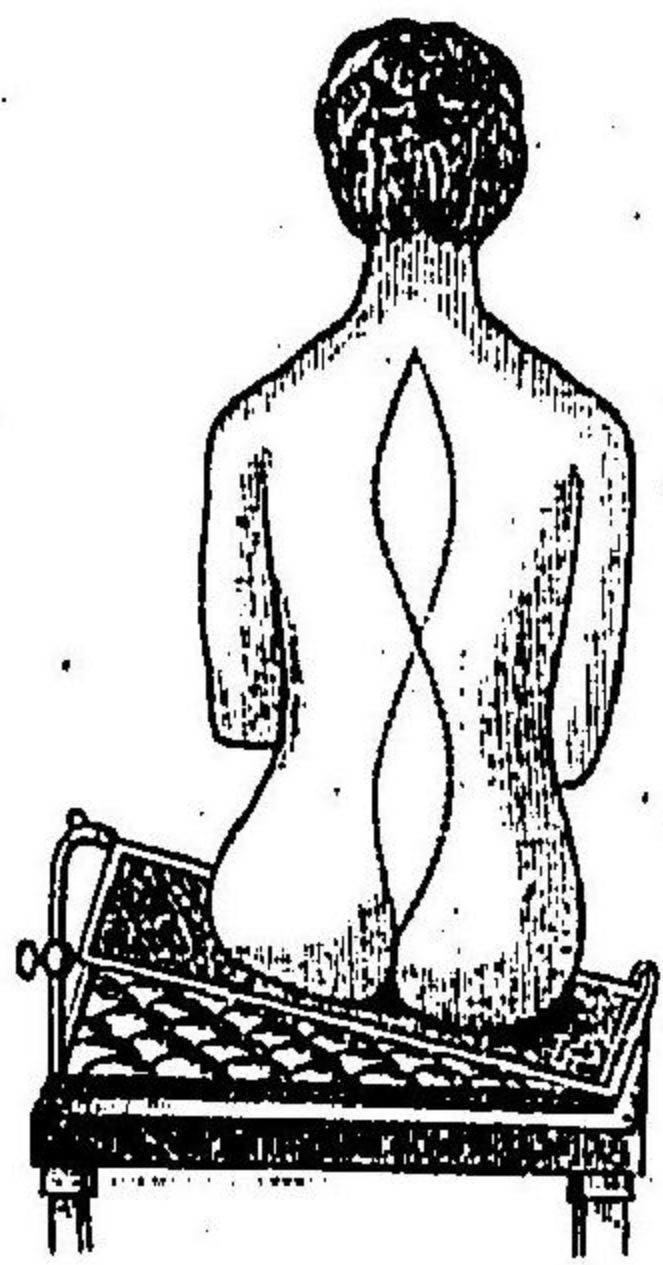
固有ノ側彎療法ハ可及的蚤ク着手セサル可ラス、其法ハ即チ各例ニ適合シタル矯正療法ト強壯性全身療法(善良ノ食物、體操、游泳、母浴、海水浴等)ト是ナリ、而シテ全身療法中予カ重キヲ置クハ仰僂病ニ於ケルカ如ク有殺果、「グラハムプロート」、石灰水、炭酸及磷酸石灰末等多量ノ石灰ヲ含有スル者ヲ供給スルニ在リ。又按摩ヲ行ヒテ背筋ヲ強壯ト爲スハ極メテ緊要ニシテランデルカ其ニ推薦シタル所ナリ。患者ハ殊ニ體操架、鞦韆上ニ於テ體操ヲ試ミサル可ラス、是等ノ器具ハ各家設ケ易キ所ノモノナリ。對抗運動ヲ兼用スル瑞典流治療的體操ハ卓絶ノ效能アリシレーベルカ記載シタル方法ニ倣ヒテ行フ室内體操モ亦然リ。總テ現在ノ側彎ヲ反對ノ側方運動ニ變セシムル操作(所謂自家整復法 *Selbstredressment*)ハ頗ル適當ナリトス、故ニ右臂ヲ弓狀ニ展張シタル右凸性胸部側彎アル小兒ニハ左臂ヲ頭上ニ載セテ軀幹ヲ可及的右側ニ彎曲シ次ニ深く呼吸セシムヘシ(シルドバツハ)、此際胸廓ノ凸側ヲ壓迫スルハ其效更ニ大ナリ。予ハ好テローレンツ、シライベル等カ稱贊セル側方懸垂ヲ應用

ス。又予ハ小兒ヲ其凸側ヲ下ニシテ硬ク充填シタル馬毛圓枕上ニ横臥セシメテ側彎ヲ過償シ而シテ其時間ノ長短ハ側彎ノ強弱ニ準セシメタリ。ローレンツハ患者ヲ浮動スル圓枕上ニ臥セシムルノ法ヲ行ヘリ、此ローレンツ氏裝置ハシライベルニ倣ヒ二條ノ門柱間ニ藤ヲ裝着シタル橫板ヲ設ケ牀板ニ螺定シタル輪ニ長キ蹄係ヲ固繋スルハ臨時造設シ易シ。

體操器固定器及轉向器ニ數種アリ就中予ハペリーノ浮動器及側彎橫木、ホッフ氏轉向器、ローレンツ氏裝置頗ル適當ナルウオルフェルマン氏裝置等ヲ掲載セントス、又懸吊及脊柱ノ展伸ニハシミットノ簡便ナル裝置ハ稱用スヘキモノトス、此裝置ハ二十馬克ヲ以テスツットガルトノウミレオボルドヨリ購フヲ得ヘシ。

轉向器ニ類似ノ作用アル「バルウエル」氏浮動蹄係即チ浮動帶トス。是レ臥牀ノ上際ニ懸垂シ麻繩ヲ以テ天井ニ固定シタル掌幅ノ蹄係ニシテ、患者ハ其内ニ於テ横位ニ臥シ以テ側彎ヲ對側ニ過償セシム。ラウフス氏浮動架ハバウエル氏蹄係ニ比スレハ更ニ簡便ニシテ亦患者ヲ側臥セシムルモノトス(第三百二十三圖ヲ看ヨ)。垂莖モ側彎矯正ノ靜置器トシテ益アリ。特別ノ靜置器ハビュリング、ヘザスビグ、ローレンツ、ペーリー等カ稱用シタル所ナリ、然レモ靜置器ハ效少ナシ、最モ適當ナルハペーリーノ展伸牀及展伸架トス。グリンソン氏蹄係ヲ用キテ持續性重牽引ヲ行ヒ且ツ臥牀ノ頭端ヲ高舉スルニ亦頗ル稱用スヘキモノトス(第三百二十二圖參看)。予カ經驗ニ

圖六百三第



フオン、
ボクマン
ノ脊椎側
彎用斜楯

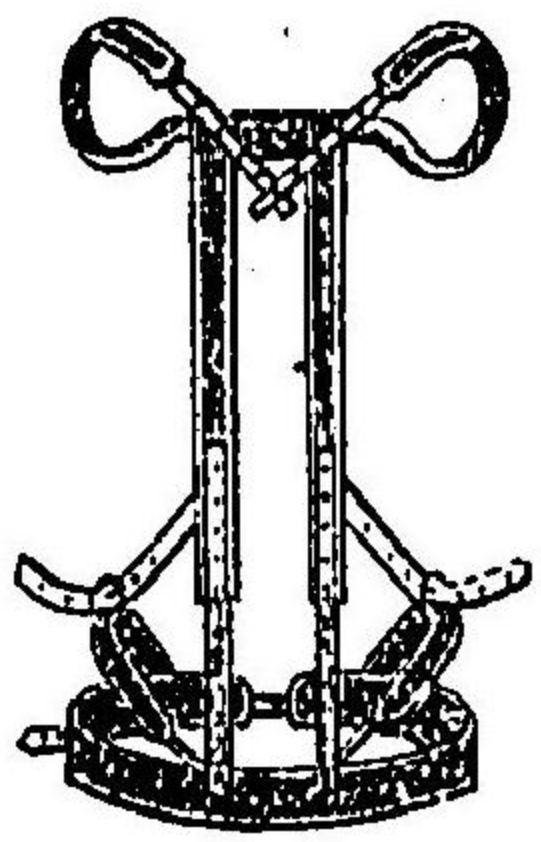
徴スレハ總テ静置器ハ獨リ晝
間ノミ應用シ夜間ハ廢止セサ
ル可ラス、蓋シ睡眠間ハ小兒
輾轉シテ寧ロ益ナクノ有害ナ
ルヲ廢之アレハナリ。

パールウエル及フオン、フォルク

マンハ坐居間例ヘハ授業中側彎ヲ四側ニ逼迫セントン傾斜シタル椅子ヲ稱用セリ
(第三百六圖)、此椅子ハ楔狀ニ傾斜シタル馬毛枕ヲ以テ容易ニ製スルヲ得ルナリ。
シライベルカ唱道セシ如ク婦人用鞍モ亦類似ノ作用アリ、故ニ亦側彎アル婦人ニ稱
用スヘキモノトス。

側彎ノ治療上樞要ナルハ支撐裝置トス、此裝置ハ減殺的ニ應用スヘキモノニ筋肉
ノ働作ヲシテ之ニ由リ妨害ヲ被ラシム可ラス。從來稱用シタル支撐裝置ハ其數夥多
アレモ多クハ脊柱ヲ支撐シ變形ヲ整復スルノ效ナシ、又弾力性牽引、「ペロツテ」壓迫、
特殊ノ副木等ヲ以テ變形ヲ矯正セントスルモノアリ。パールウエル、エ、フカツシエル、ホ
ツアルド等ノ弾力性牽引器頗ル簡便ナリト雖モ脊柱ヲ支撐スルノ力十分ナラス且ツ
久シキニ堪ヘス、頗ル稱用スヘキハ既ニ述ヘタルカ如クウオルフェルマン氏裝置ト
ス。

圖七百三第



脊椎側彎
ニ用ナル
支撐器

「ペロツテ」壓迫裝置中最モ有名ナルハニロップノ裝置ナラム。予ハ現今此裝置モ亦應
用セス、是レ其作用十分ナラサルノミナラス間、害アレハナリ。蓋シ肩胛ハ甚タ後方
ニ牽掣セラレ「ペロツテ」ノ壓迫力ハ十分ナラス、又其作用ヲ強大ナラシメント欲スル
モ裝置之ニ堪ヘサルヘシ。
善良ニ簡便ナル側彎支撐裝置ハ予カ所見ニ據レハ一條乃至二條ノ鋼鐵副木、二個
ノ腋窩支柱及一條ノ骨盤帶ヨリ成レルモノ是ナリ。但シ鋼鐵副木ハ伸縮自在ナラサ
ルヘカラス。廣幅ノ「ペロツテ」ヲ以テ後肋骨龜背ヲ矯正スルノ要用ナルヲ往々之ア
リ。予ハ近來側彎ニ於テ第三百七圖ニ描寫シタル支撐裝置ヲ應用セリ、此裝置ハ
フオン、フォルクマンモ亦屢々稱用セシモノナリ。若シ必要ナルキハ後肋骨龜背ノ矯正
ニ廣幅ニノ褥ヲ着ケタル定位性金屬板ヲ應用ス、此裝置ハ予ノ頗ル満足スル所ナ
リ。

廣幅ノ鋼鐵副木、弾力性腋窩挺杖及定位性「ペロツテ」ヲ具ヘタルゴールドシミット、

并ニオキレンブルグ氏裝置ハ頗ル適當
ナルモノニ弘ク行ハル。

側彎ノ治療上決シテ缺クヘカラサルハ
「コルセット」ニ例ヘハセールニ倣ヒ
義布斯若クハ毛絨ヨリ製シタルモノ是

ナリ。セールカ義布斯「コルセット」ヲ輸入セシハ側彎ノ治療上功勞實ニ大ナリト謂フヘシ。獨逸外科醫中義布斯「コルセット」ヲ採用セシハゾンチンブルグヲ以テ嚆矢トス、氏ハ之ヲ二百五例ノ脊柱病患者ニ應用シ就中百八十三例ハ側彎ニシテ二十二例ハ後彎ナリシト謂フ。輕症ノ側彎ニハ鋼鐵桿ト支臂器ヲ具ヘタル三條布ヨリ製シタル「コルセット」ヲ以テ足レリ。

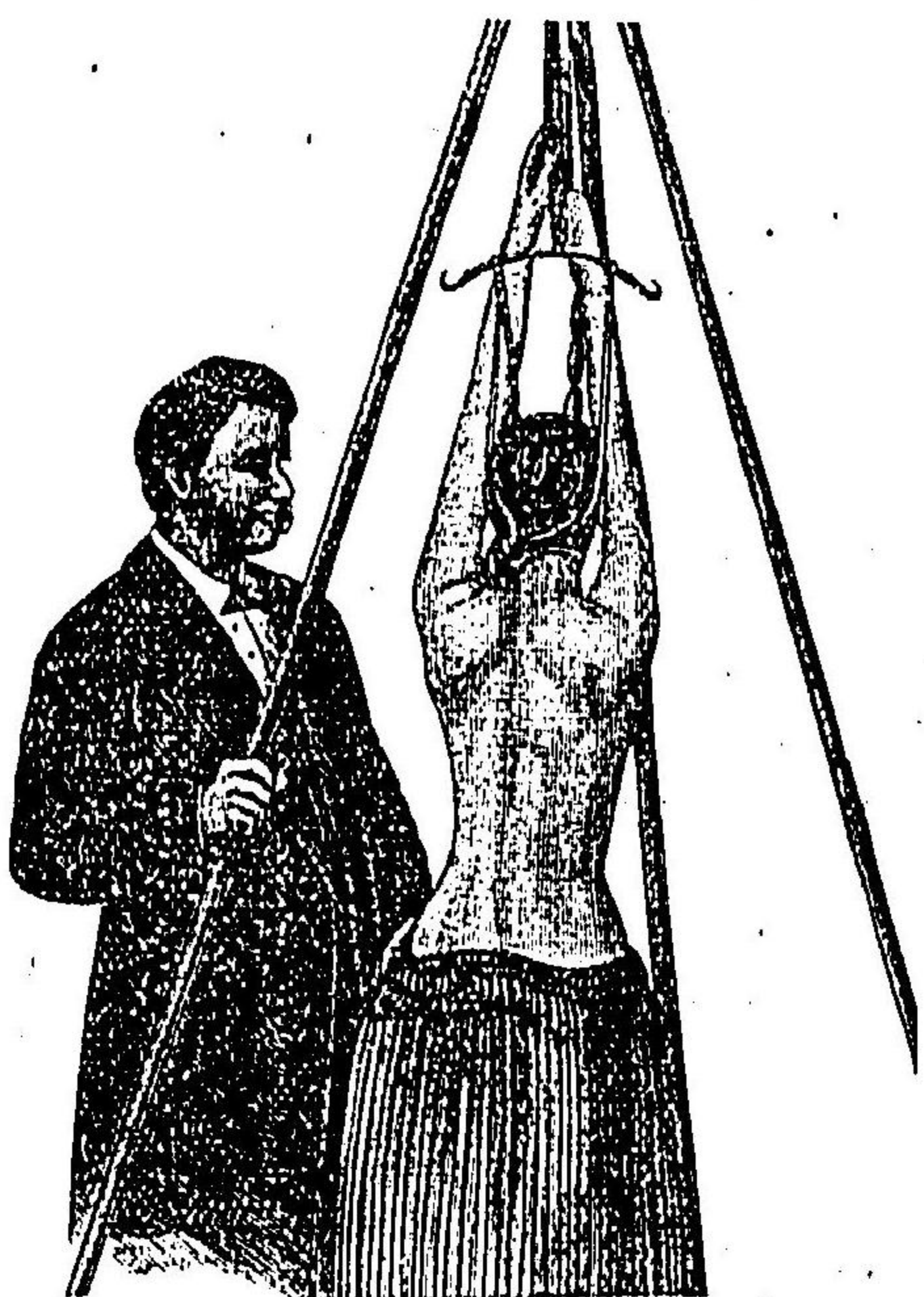
多クノ外科醫ハ主ラ義布斯製若クハ毛絨製「コルセット」ヲ使用シ他ノ支撐器ハ總テ擯斥セリ。然レモ是レ妥當ニアラス、蓋シ義布斯製及毛絨製「コルセット」ト雖モ尙ホ弊害ナキ能ハス、殊ニ温暖ナル季節ニ於テ然リ。加之毛絨製及義布斯製「コルセット」ハ背筋並ニ胸筋ニ害アリテ助モスレハ之ヲ萎縮セシム。此萎縮ヲ妨遏セントセハ患者常ニ一定ノ法式ニ準シテ按摩ヲ試ミサル可ラス、又硬化質ヨリ製シタル「コルセット」ノ爾餘ノ弊害ハ屢ニ革新セサル可ラサルニ在リ。而シテ毛絨製及義布斯製「コルセット」ヲ用キルニ適當ナルハ殊ニ第二度ノ側彎及疼痛ト胸腔内臓ノ障碍トヲ兼ネタル第三度ノ重症トス。然レモ概スルニ硬固ナル義布斯製及毛絨製「コルセット」ハ筋肉ヲ萎縮セシムルノ故ヲ以テ現今ハ其應用往時ノ如ク頻繁ナラス、之ニ比スレハ寧ろ義布斯鑄型ヲ用キテ製作シ鋼鐵桿ヲ骨子ト爲シタル柔軟質ノ「コルセット」例ハハベール氏「コルセット」(第三百十五圖及第三百十六圖ヲ看ヨ)ヲ優レリトス。

軟化質(義布斯毛絨)ヨリ

「セール」氏義布斯「コルセット」ハ次ノ法ニ遵ヒテ製造スルモノトス、則チ患者ハ骨盤ニ至ル迄全上半身ヲ裸

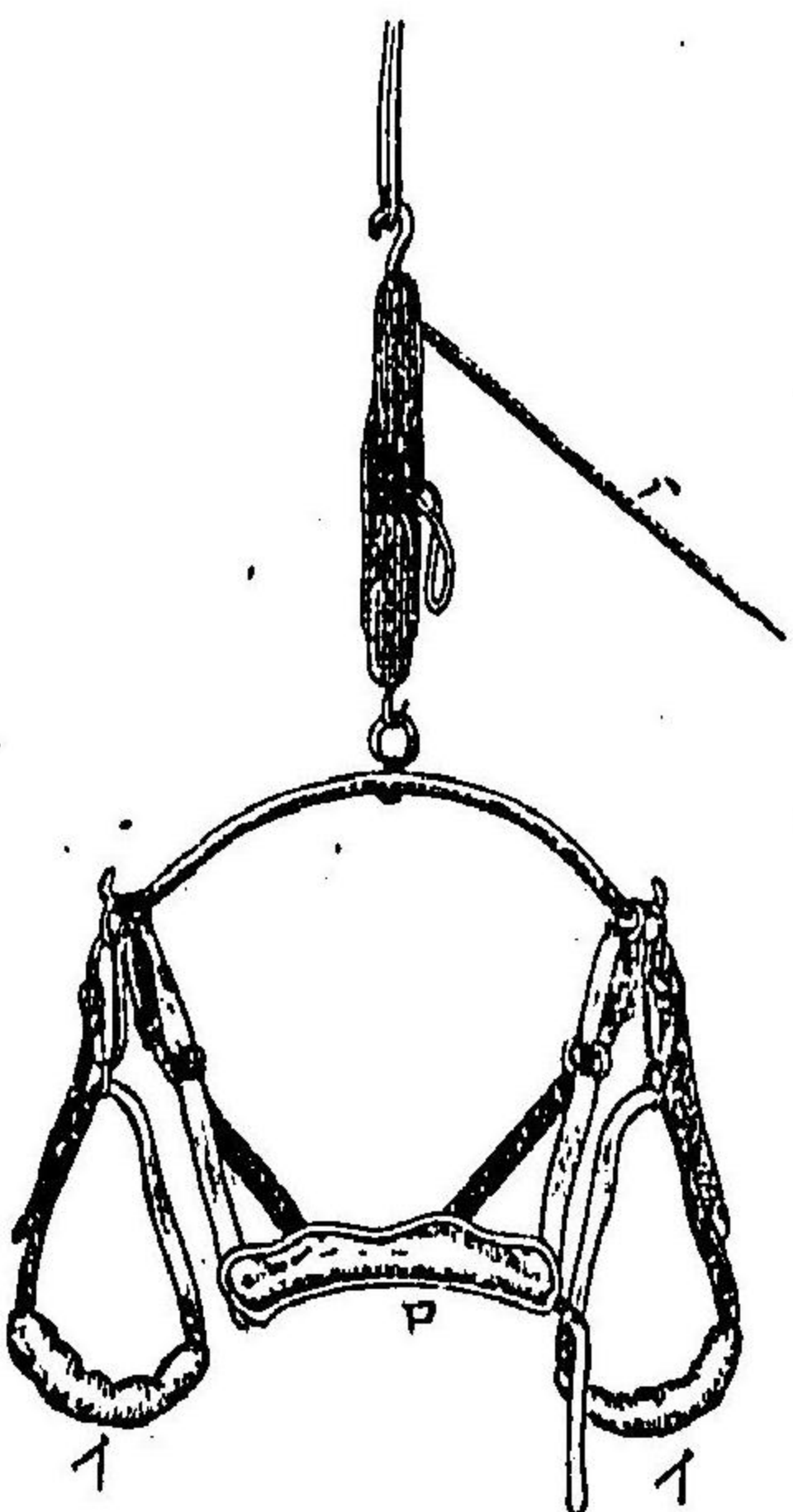
「コルセット」ヲ製スルノ法

圖八百三第



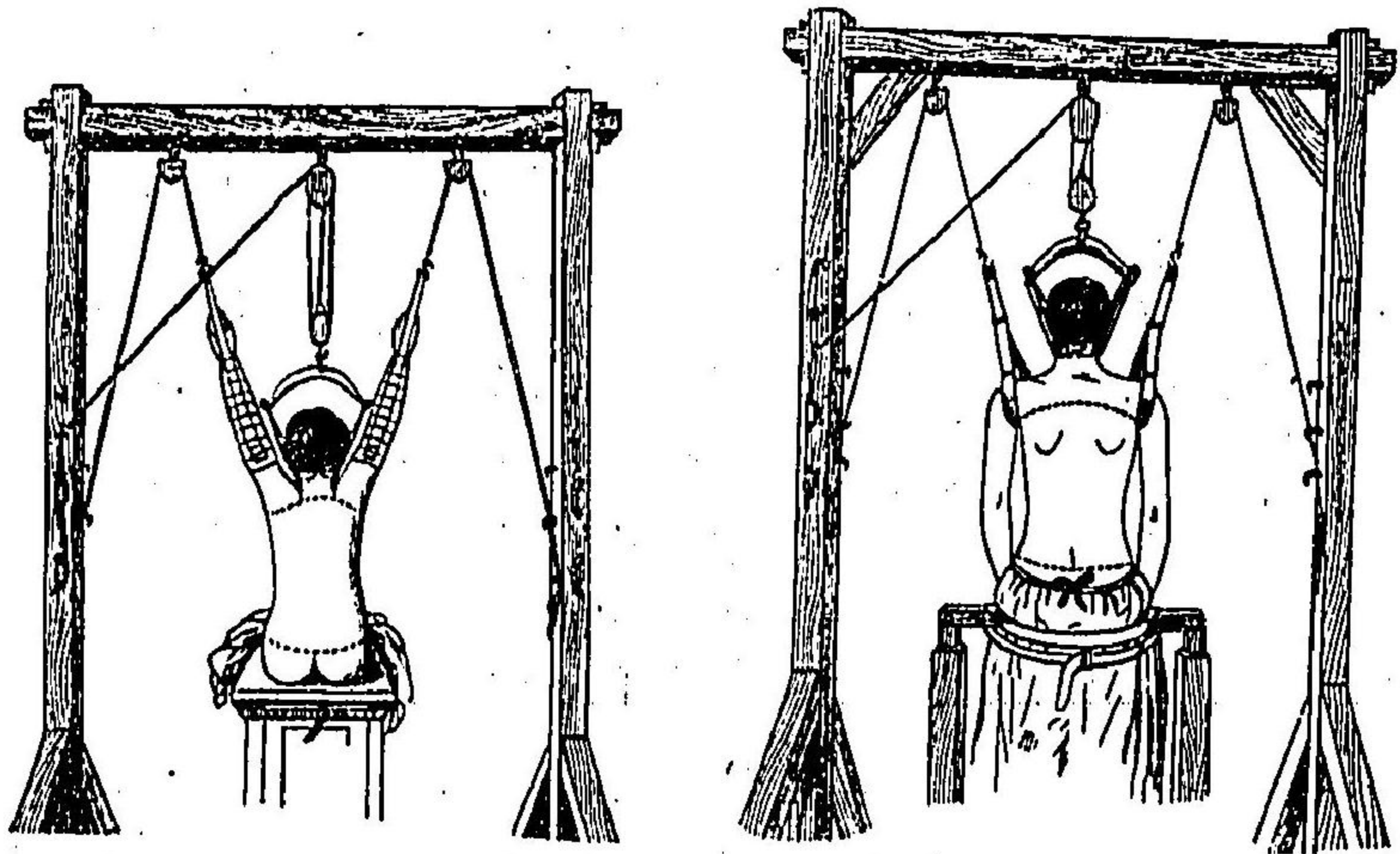
脊柱側彎用義布斯「コルセット」ヲ製スルニ用井ルセ

圖九百三第



脊柱側彎用「コルセット」ヲ製作スルニ用井ル懸吊器
 「イ」臂懸係
 「ロ」願帶
 「ハ」固定紐條

圖 十 百 三 第



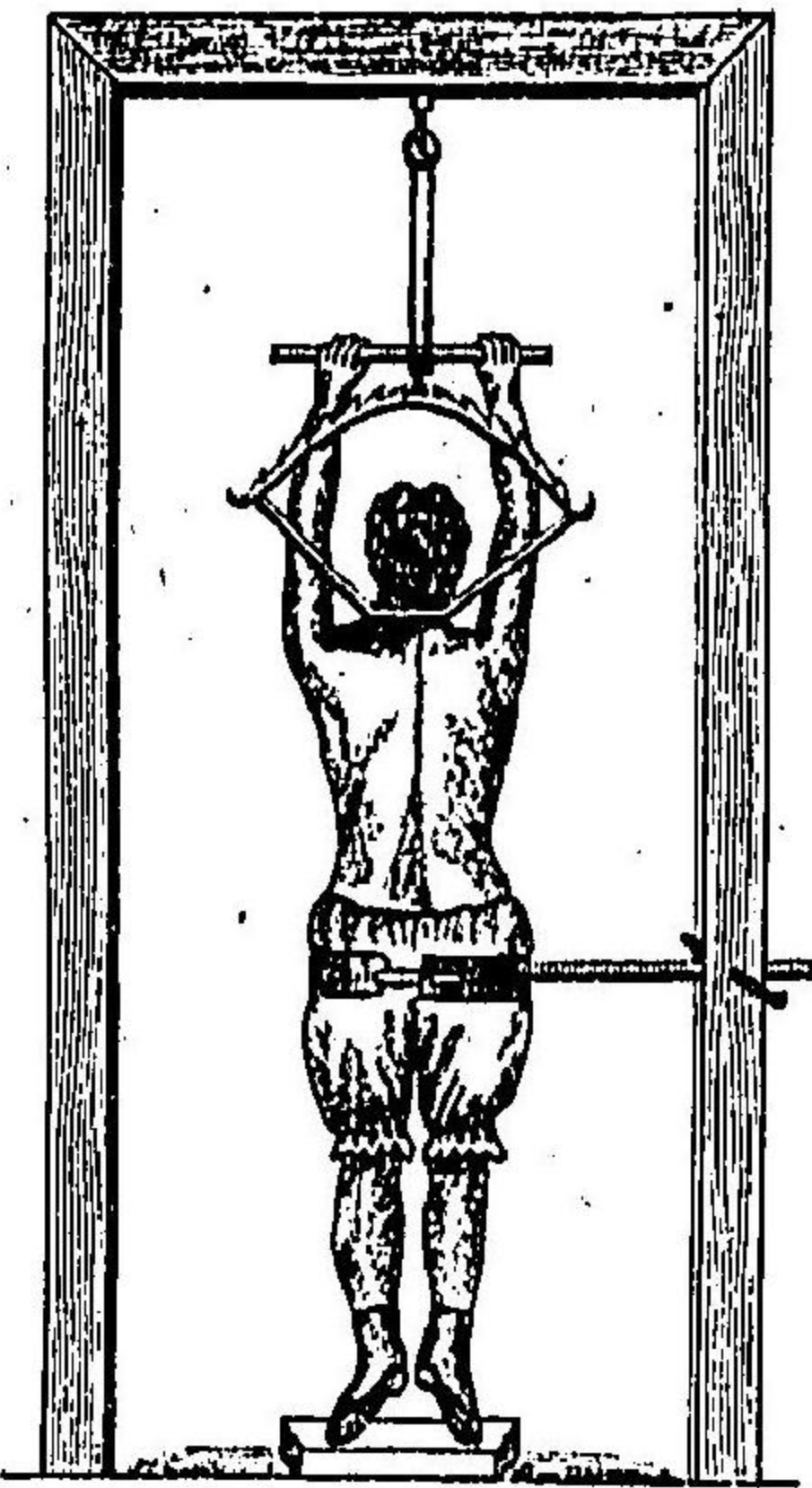
乙

甲

法
氏ノ懸吊
ペーリー

露セサル可ラス。セールの患
者ヲ第三百八圖ニ示シタル特
別ノ裝置ニ懸吊セリ。第三百
九圖ニ掲ケタル懸吊器ヲ手術
室ノ天井固定シタル環ニ固着
シ紐條(ハ)ヲ引キ項部及下頸
ノ周圍ニ纏結シ善ク棉花ヲ施
シタル革帶(ロ)ト皮膚革條
(イ)トヲ以テ患者ヲ懸吊スル
ハ更ニ簡便ナリ、其際患
者ノ足尖ハ向ホ牀板ニ觸レサ
ル可ラス(第三百十一圖)、又
外耳及下頸部ニハ厚キ棉花枕
ヲ施シテ其壓迫セラレチ
防クニ注意スヘシ。(手ハ腕近
頤帶(第三百九圖(ロ))ト皮膚
支撐(イ)トハ重症ニノミ用
通常ハ患者ヲシテ其兩手ヲ以
テ懸吊器ヲ緊着シタル鐵製橫

圖 一 十 百 三 第



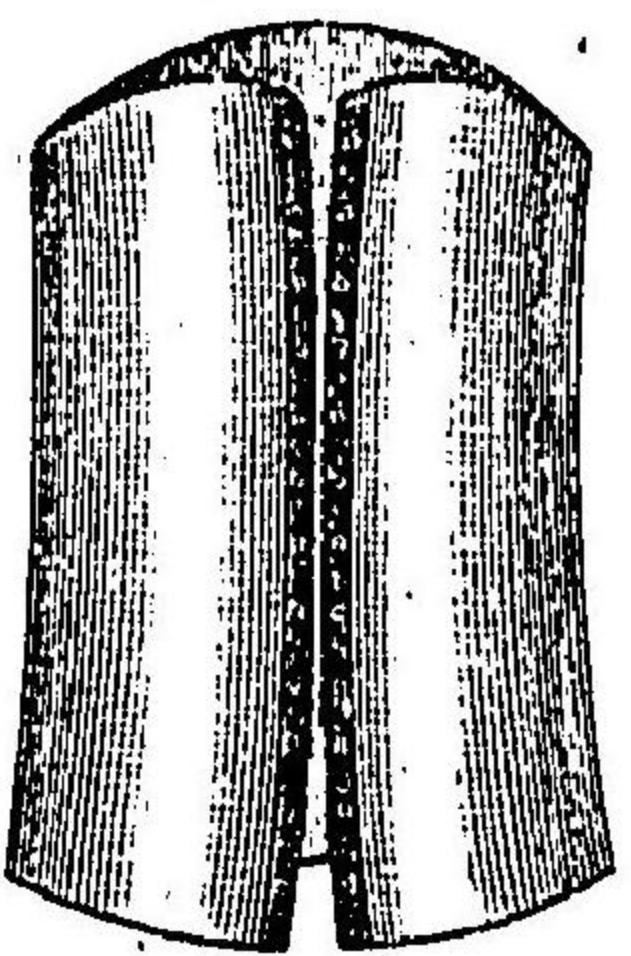
ローレン
ツ氏ノ懸
吊法

桿ヲ握ラシムルカ、或ハ頤帶ヲ脱シテ第三百十一圖ニ示スカ如ク操作シテ之ヲ用ルナシ、ペーリー(第
三百十圖(甲)及(乙))及ローレンツ(第三百十一圖)ノ懸吊法モ亦頗ル適當ナリトス。此兩法ニ於テハ義布斯
コルセットトシテ製スルニ當リ患者ノ動搖セサル爲メ骨盤ヲ固定セリ。
既ニ患者懸吊セラレタルキハ側彎ノ矯正位ニ於テ平等ニ接合シタル肉形上ニ義布斯懸帶ヲ施スヘシ、其法
ハ次ノ如ク行フチ最良トス、則チ凡ソ膝膈ノ上際ニ到ル迄垂下シタル肉形ヲ胸廓ノ中線ニ於テ先ツ安全針
ヲ以テ收束シ次テ頸部ヨリ骨盤部ニ到ル迄縫合ス。肉形ノ下ニハ胸ノ中線ニ方リ頸ヨリ膈ノ上際ニ到ル迄
長キ棉花枕ヲ挿入シ胃部ニハコルセットノ壓迫ヲ避ケンカ爲メ殊ニ之ヲ強固ナラシム、而ソ肉形ハ穿
通シタル紐帶ヲ以テ膈上ニ固定シ腋窩ハ適當ニ截除スヘシ。義布斯懸帶ノ硬化スルヲ俟テ除去スヘキ毛絨
板ヲ前方ニ挺出シタル肩胛板ノ下ニ裝シテ該部ヲ空虚ト爲スノ適切ナル一層ノ之アリ。此毛絨板ハ肉形ニ
縫着シテ放置スルモ可ナリ。此方法ヲ以テスレハ例ヘハ後肋骨脊骨上ニ壓迫ヲ施スチ得ヘシ。婦人ニハ乳
腺ニナル部分ヲ空虚ト爲シテ其壓迫ヲ避ケサル可ラサルハ論ヲ要セス。

上記ノ法ニ隨ヒ胃部ト
胸廓ノ中線トニ棉花枕
ヲ挿シテ中線ニ於テ
肉形ヲ縫合シ了リタル
キハ其上ニ義布斯懸帶
ヲ施スヘシ其際介者
ハ義布斯ヲ正規ニ肉形
中ニ壓入シ且ツ之ヲ速
カニ硬化セシメンカ爲

メカメテ塗抹セサル可ラス。此義布斯「コルセット」ハ定型性胸部側彎ニ於テハ腋窩ヨリ腸骨榑ニ達シ以テ骨盤ト腋骨ノ上部ヲ併セ掩ハサル可ラス。義布斯ハ最良ノ彫刻用義布斯ヲ用井又細帯ハ水ニ濡シテ柔軟ト爲シタル後適宜ニ壓穿セサル可ラス。必要アラハ製靴用薄板、金屬副木ヲ支柱ト爲シ或ハ毛絨海綿等ヲ以テ内側ヲ被覆スルモ可ナリ。又「コルセット」ハ厚薄、輕重俱ニ其立シキヲ失フヘカラス、年齡十二歳ノ患者ハ通常六乃至八ノ中等廣幅ノ細帯ヲ以テ足レリトス、義布斯泥ハ終リニ用井ル可ラス、「コルセット」最後ノ義布斯帶ヲ施シタル後一二分時ニシテ硬化シタル後ハ短厚ニシテ少シク彎曲シタル球頭剪ヲ以テ胸ノ中線ニ方リ下際ニ挿入シタル線條ニ沿フテ之上ヨリ下ニ到ル迄截破シテ小心之ヲ右方或ハ左方ニ離解シテ脫除ス、「コルセット」ヲ脫除シ了リタル後ハ之ヲ正位ニ於テ復タロ瓦股細帯ヲ纏絡シテ固定シテ「コルセット」ヲ少シク左右ニ牽引シテ棉花枕子ノタメ増大シタル「コルセット」ノ矢狀線ヲ短縮スヘシ、又「コルセット」ニ痕跡ヲ殘シタル溫湯ヲ少シク深凹ト爲シテ胸腹ノ側部ヲ修良スルヲ要ス、而シテ「コルセット」ハ煖爐ニ上セテ乾燥セシムルヲ最良トス、翌日ニ至リ「コルセット」乾燥シタル後ハ之ヲ上ハ腋窩下ハ骨盤部ニ於テ適當ニ截除シ以テ腋窩及骨盤部ヲ壓迫セサラシムヘシ、遺殘シタル内形ハ「コルセット」ノ外面ニ

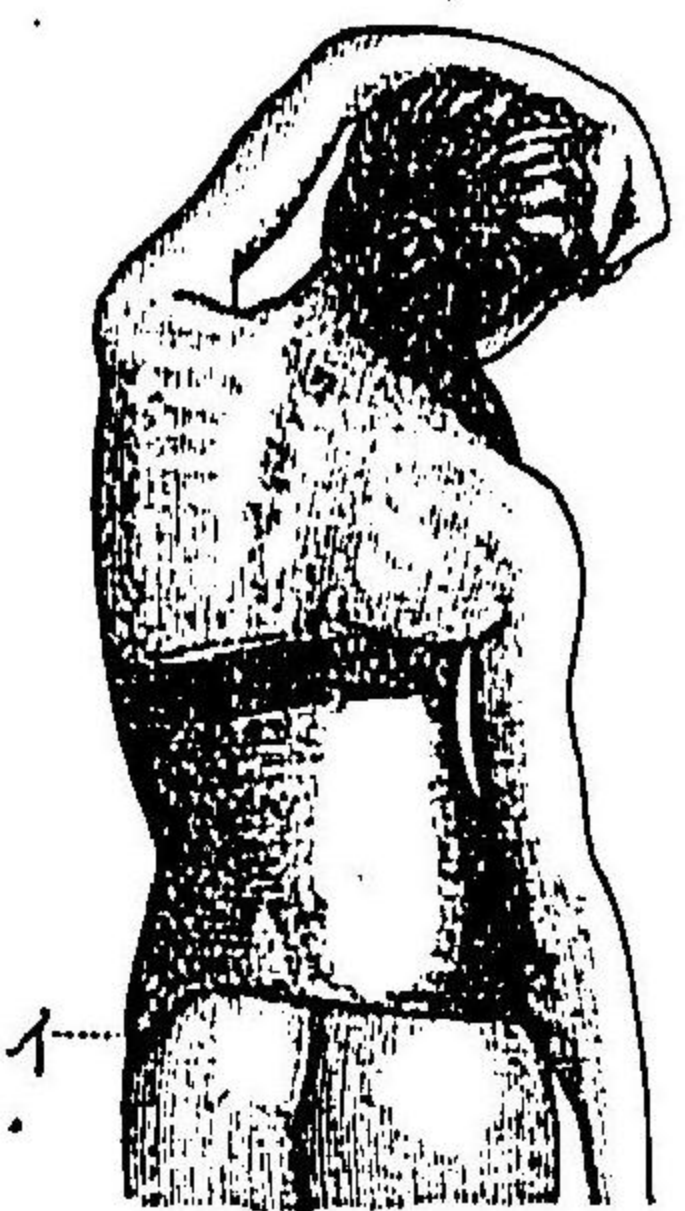
圖二十百三第



翻折シ「コルセット」ノ邊緣ハ縲革ヲ以テ包裹シ紐條裝置ヲ附スヘシ然ルハ縲革ニ便ナリ(第三百十二圖)。

ローレンツハ細帯ヲ施シタル後更ニ側彎ヲ反對ノ方向ニ廻轉シ即チ過償セントン牽製帶(第三百十三圖)、壓迫細帯、帶狀細帯(第三百十四圖)〔甲〕及〔乙〕ヲ稱用セリ、是等ノ細帯ハ家居ノ際ノミ携帶スヘキモノニシテ患者ハ之ヲ爲メ止ムヲ

圖三十百三第



得ス現在ノ側彎ニ反對シテ脊柱ヲ自動的ニ廻轉スルニ至ル。而シテ牽製帶ハ右牽性胸部側彎ニ於テハ上半身ヲ骨盤ニ到ル迄固定スルモノニシテ右方ハ肩胛板ノ尖端ニ到リ左方ハ稍ト低シ。此細帯ハ患者ノ起立位ニ於テ施スヘキモノニシテ上半身ハ例ハハ胸部ニ纏絡シタル細帯ニ由リテ側方ニ彎曲シ骨盤ハ釋テ若クタル骨盤鐵把ノ把提スル所ト爲ル(第三百十一圖ヲ看ヨ)。骨盤纏絡中ニハ義布斯ヲ以テ孔口ヲ穿テタル環ヲ具フル鐵葉ヲ封シ之ニ脚衣ヨリ發出シタル革條ヲ繫着ス(第三百十三圖)〔イ〕、是レ腋部ニ於ケル細帯ノ滑脫ヲ避ケン爲メナリ、義布斯「コルセット」ハ脫除ニ適セシムヘキハ裝スルヲ要セス。

原發性腰部側彎ニ用井ル細帯ハ亦前者ニ同シク患者ノ起立位ニ於テ側彎ヲ反對ノ方向ニ廻轉セシメテ施スヘキモノトス。例ハハ左性腰部側彎ニハ左足趾ヲ二乃至三、五仙迷許高舉シ骨盤鐵把ヲ以テ骨盤ヲ固定シ腰幹ヲ左方ニ傾斜シ腋窩挺杖ヲ以テ支撐ス次テ此位置ニ於テ義布斯細帯ヲ施シ以テ例ハハ左側性側彎位ニ在ル腰部脊柱ヲ右凸性彎曲位ニ固定ス(第三百十四圖)〔甲〕及〔乙〕。

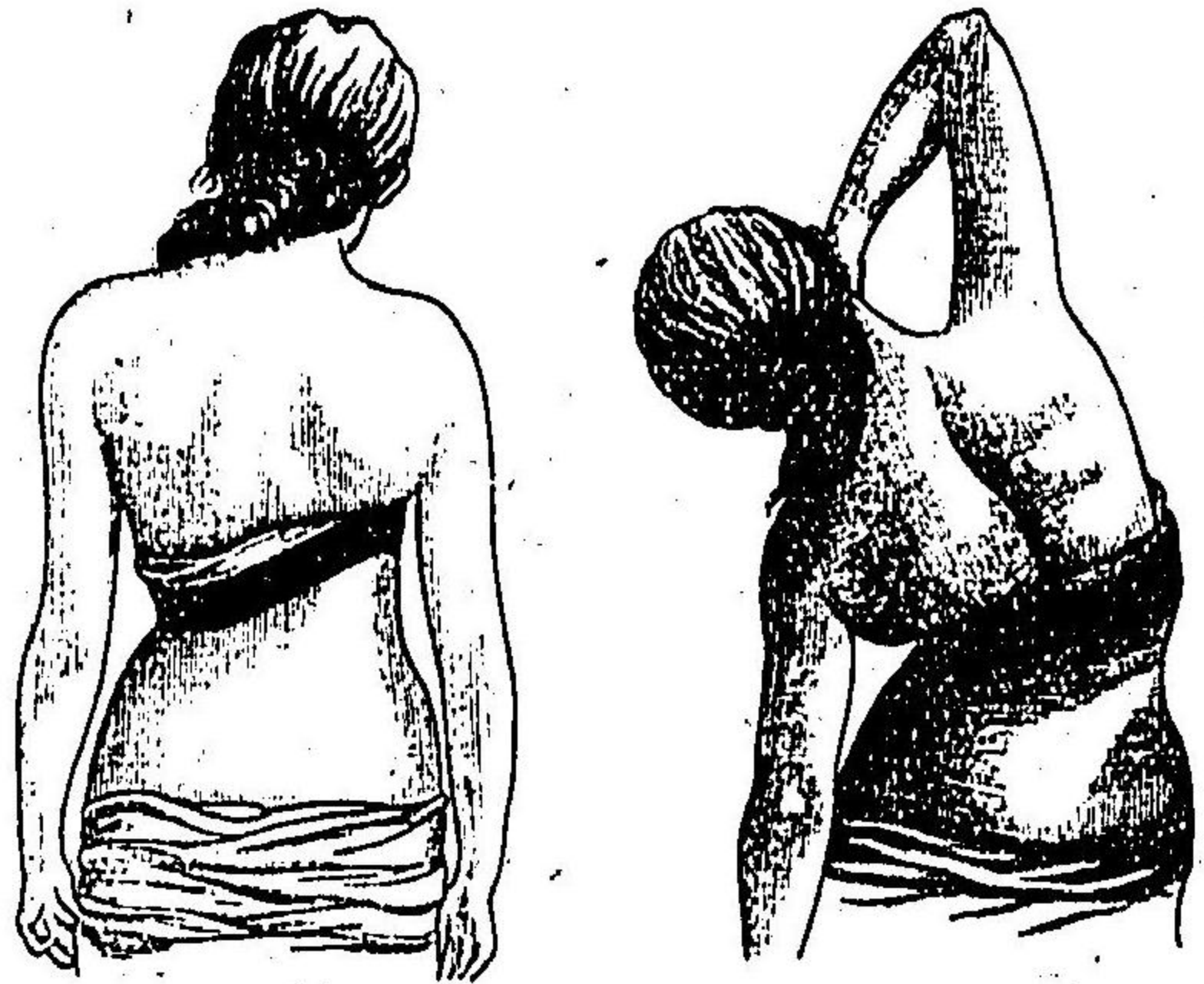
ローレンツ氏壓迫細帯ノ主眼ハ「コルセット」ノ内側ニ裝着シタル毛絨板ヲ以テ胸廓ヲ對角線ノ方向ニ壓迫スルニ在リ、之ヲ成功センニハ「コルセット」ヲ若ク厚キ毛絨板ヲ以テ凹側胸部ノ扁平陷凹セル部位ヲ掩

フヘシ、此毛絨板ハ「コルセット」ヲ着了シタル後ハ撤去スヘキモノトス、然ルハ胸部凹側ノ陷凹部適當ニ空虚ト爲リ胸廓ハ凸側ニ於テ「コルセット」ノ内面ニ繫着シタル毛絨板ノ壓迫ニ由リテ側彎ノ凹側ニ向ヒ返迫セラル。垂直位或ハ側臥位ニ於テモ亦「コルセット」ヲ施スヲ得ヘシ。ペーテルセン

水硝子「コルセツト」

水硝子ト綿綱ヨリ製シタル「コルセツト」

第三百四十四圖



ローレンツ氏ノ腰
部脊柱側
彎用帶狀
綁帶

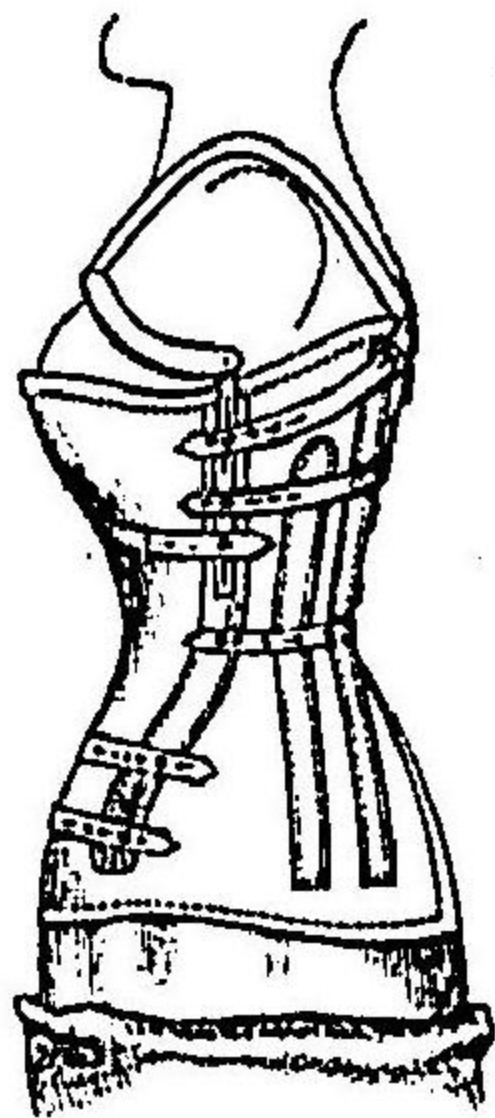
ニ施ス第一ノ綁帶ハ克ク壓搾セサル可ラス、然ラサレハ皮膚剝脱及濕疹生シ易シ或ハ義布斯綁帶ヲ第一ノ綁帶ニ供スルモ可ナリ、カレフスキーハイヌラエルノ勸告ニ從ヒ綿綱ト水硝子トヨリ製シタル「コルセツト」ヲ稱用セリ。
次ニ作像用毛絨ヲ患者ノ懸吊位ニ於テ其胸部ニ適合セシメ或ハ之ヲ義布斯縛製若クハ義布斯「コルセツト」ニ擬シテ「コルセツト」ト爲セリ。

ハ患者ヲシテ半坐位ヲ爲サシメ下肢及頭ハ臺ヲ以テ支ヘ遊離シタル腰幹ハ廣幅ノ綁帶若クハ重積シタル三角布ヲ以テ過價位ニ於テ橫桿ニ固定シ運滑車ヲ以テ高舉シ次テ義布斯ヲ施セリ、而シテ綁帶若クハ布片ハ亦義布斯ヲ以テ封シタリ。

「コルセツト」ヲ製スルニ義布斯ヲ用非スニ他ノ物質ヲ用非ルコトアリ。頗ル恰好ナルハ水硝子製「コルセツト」ニシテ且此「コルセツト」ハ輕クシテ且ツ久シキニ耐ユ、但シ肉彩上

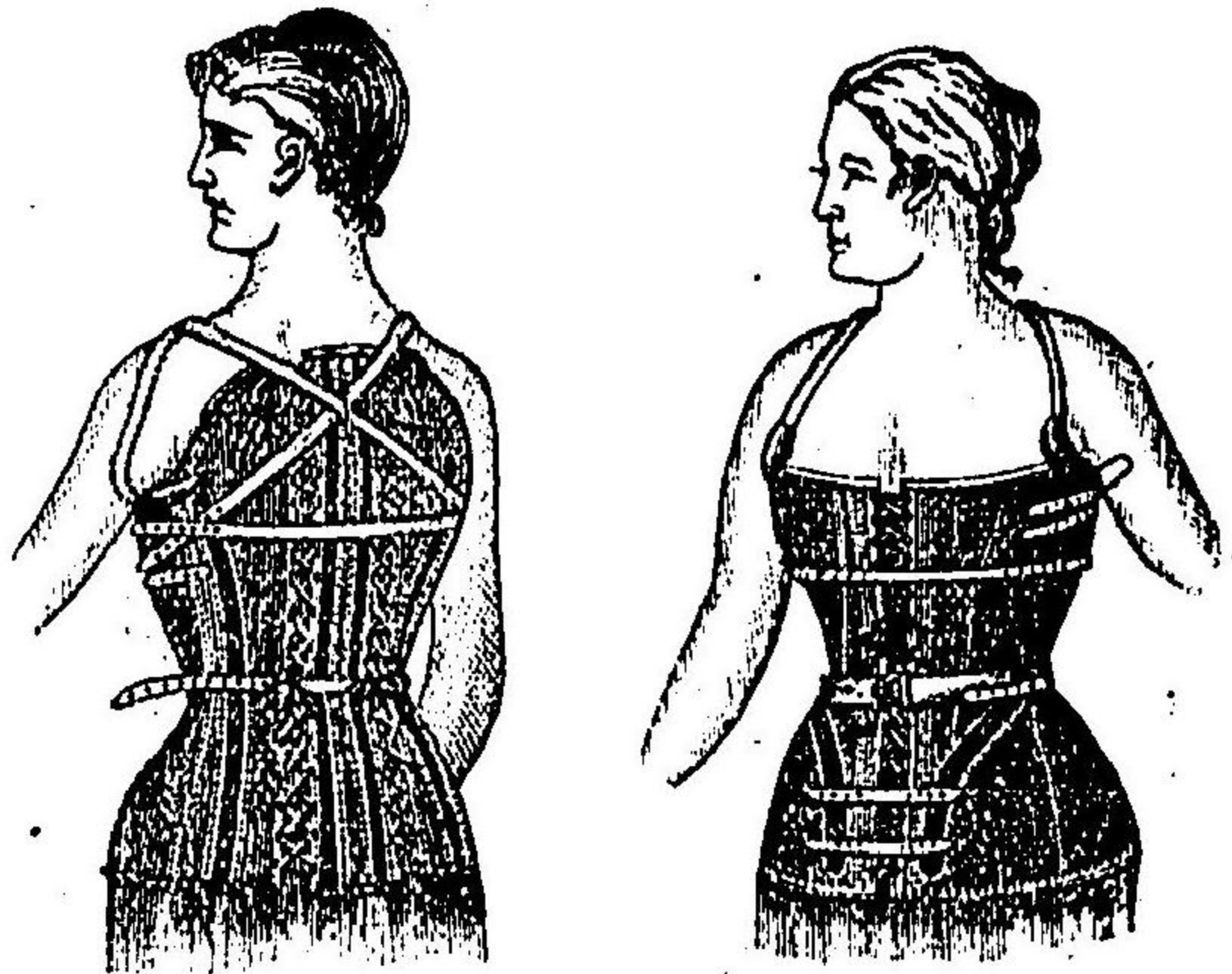
毛絨「コルセツト」

第三百五十五圖



「ペーリー」氏脊柱「コルセツト」
側觀

第三百六十六圖



「ペーリー」氏脊柱彎用「コルセツト」
「甲」前觀
「乙」後觀

毛絨「コルセツト」ハ次ノ方法ニ從ヒテ製作セルモノチ最も多シトス、即チ上段ニ配載シタルカ如ク患者ヲ懸吊シ作像用毛絨ノ熱氣ニ備ヘンカ爲メ全上半身ニ濕潤シタ「フランチル」ヲ纏絡スヘシ、是ニ於テ百度ニ熱シタル鐵葉爐内ニ凡ソ十五分時間温メ以テ柔軟ナラシメタル作像用毛絨ヲ用非患者ノ大サニ適合セル「コルセツト」ヲ可能的速ニ製センカタメ摩擦シ敲打シ且ツ牽引シテ以テ患者ノ胸廓ニ適合セシム。次テ「コルセツト」ヲ脱シ患者ノ懸吊ヲ解クヘシ。肌膚ヲ壓迫スルノ虞レアル邊縁ハ宜シク刀ヲ以テ截除シ皺襞ハ熱シタル釘子線ヲ以テ平滑ト爲スヘシ。此毛絨「コルセツト」モ亦革帶及扣子ヲ具ヘ肌膚ニ密着シタル肉彩上ニ着クヘキモノトス。毛絨「コルセツト」

ヲ環メ製作シタル義布新模型ニ擬シテ製スルヲ得ルハ既ニ述ヘタル所ナリ(後章ヲ參照スヘシ)。
 ハ、ブルーンズハ被覆用毛絨ヲ柔軟ト爲シ適當ニ切裁シテ亞爾爾個保兒性「シエラック」溶液(六百瓦ノ「シ
 エラック」チ「リール」タル「ノ」亞爾爾個保兒ニ溶解シタル者)ヲ含マシメ若クハ塗抹スルヲ稱美セリ。此「コ
 セット」ハ冬季ニハ四五日夏季ニハ二三日内ニ乾燥ス。
 頗ル優等ニシテ精功ナル「コルセット」ハ伯林ノ「ペーリ」カ製作シタルモノ是ナリ(第三百十五圖及第三百十
 六圖)。
 爾餘「コルセット」ニ就テハ附テ後章ヲ看ヨ(後章)。

第四百十六章 脊柱後彎 Die Kyphose der Wirbelsäule.

脊柱後彎

常習發育性脊
柱後彎(圓背)

脊柱後彎トハ凸側後方ニ向ヒタル脊柱彎曲ノ謂ニシテ原因上並ニ病牀上大別シテ二種
 ト爲ス、則チ(一)發育性或ハ常習性後彎 是レ姿勢彎曲セルカ爲メ圓背 *runde Rück-*
en ノ稱アルモノニシテ尙候病性或ハ筋肉、靱帶俱ニ薄弱ナル小兒ニ殊ニ發スルモノ
 ナリ、(二)結核性椎骨炎 二原因シ或ハ腫瘍若クハ護謨腫性炎等爾餘ノ疾患ニ由リ
 發生セル椎骨缺損ニ續發シタル後彎即チ脊柱屈曲是ナリ。外傷性後彎ハ既ニ上條骨
 傷及脱臼ヲ論スルニ當リ記載セリ、故ニ此處ニハ常習發育性後彎ト結核性脊柱病ニ
 原因シタル脊柱後彎性屈曲トヲ論スルノミ。
 常習發育性脊柱後彎所謂圓背 ハ殊ニ二三歳ノ尙候病性小兒ニ發シ又小兒ノ發育期

ニ當リ讀書、習字ノ際姿勢龜背狀ニ彎曲スルニ由リ生ス、後者ハ殊ニ十乃至十六歳ノ
 貧血性ニシテ筋肉薄弱ナル少女ニ發生スルモノトス。細心ナル父母ハ之ヲ側彎ノ初期
 ト爲シテ憂慮スレトモ素ヨリ妥當ニアラス、蓋シ姿勢彎曲セシメ即チ後背ヲ輕度
 ニ屈スル小兒ハ通常側彎ニ罹ラサルハ既ニ記載セシ所ナリ、但シ之カ破格ナシトセ
 ス。

此變形ハ絶エス前屈位ニ於テ職業ヲ執ラサル可ラサルモノ例ヘハ駄夫、靴工等ニ於
 テハ老年ニ及ンテモ亦職業的疾患ト爲リテ發生スルヲアリ。此職業的後彎ハ主トシテ
 椎體及靱帶板ノ壓迫性萎縮ニ關スルモノニシテ年齢ニ從ヒ増進ス、蓋シ骨及靱帶ノ老
 性萎縮ト筋肉ノ萎縮トハ相離レサルヲ以テ患者次第ニ身ヲ直保スルノ力ヲ失スレハ
 ナリ。

甚タ稀有ノ例ニ於テハ骨軟化症ノ爲メ脊柱後彎ヲ起スコアリ。
 殊ニ蚤小兒期ノ尙候病性脊柱後彎ハ頗ル高度ニ達スルヲアリ、然レモ尙候病治癒ス
 ルニ隨ヒ消散スルヲ常トス而シテ脊柱ノ屈曲結核性椎骨炎ニ於ケルカ如ク著明ナラス
 ノ全胸部脊柱漸ヲ逐フテ彎曲セルハ總テ是等負擔性脊柱後彎ニ特有ナル所ナリ。
 常習發育性脊柱後彎ノ療法ハ先ツ其原因ニ準スヘシ。則チ尙候病ニハ之ヲ適當ニ治
 療シ(外科總論ヲ看ヨ)又斯ノ如キ小兒ハ持續性ニラウホフス氏浮動架ニ背臥セシ
 ムルカ、或ハ其背下ニ馬毛圓枕ヲ施スヘシ。時トシテ支撐裝置ノ要用ナルヲアリ。例

脊柱後彎

ハシライベルハ背部ニ係リ二條ノ腋窩帶ト廣幅ノ腹帶トヲ以テ固定セラル、偲答百兒加製副木ヲ稱美セリ。

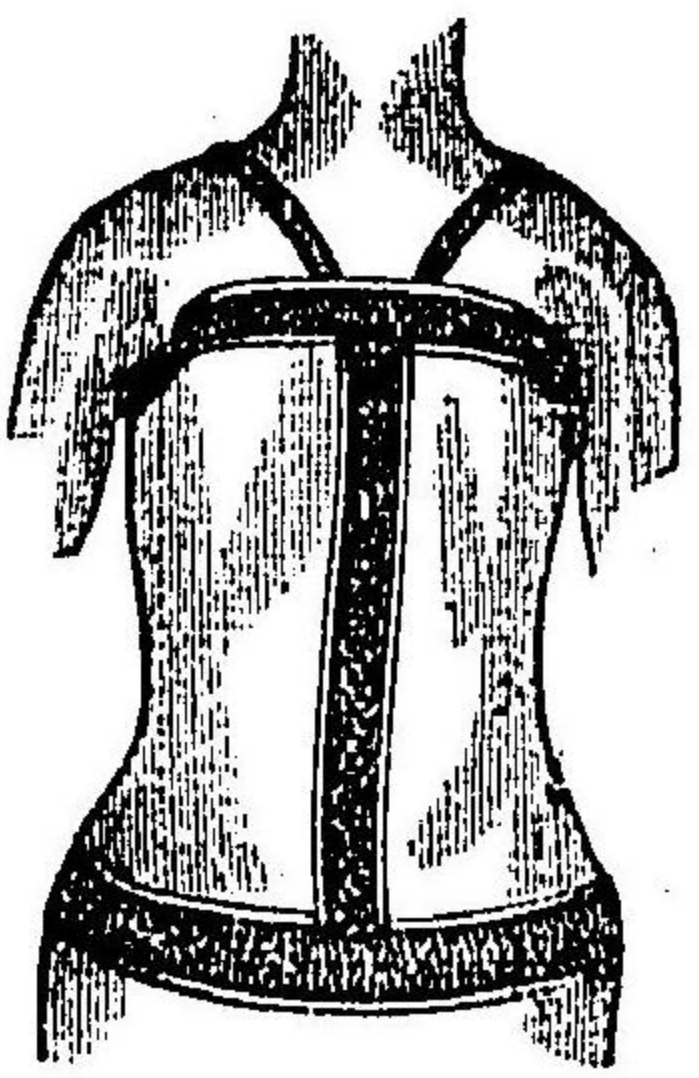
眞性ノ常習性脊椎後彎即チ十乃至十六歳ノ小兒ニ於テ殊ニ坐居ノ際姿勢ヲ彎曲スルニ由リ發生スル圓背ニハ第一ニ小兒ヲ戒飾シ常ニ身體ヲ直保セシメ必要ナルキハ直保器ヲ應用スヘシ。直保器ハ其種類極メテ多シト雖モ大抵不適當ニシテ其效十分ナラサルモノアリ、眞ニ適當ナル直保器ハ側彎ノ支撐器ニ等シク骨盤帶、鋼製後背副木及肩胛固定器ヨリ成ルモノナラサル可ラス。彈力性牽引作用アル直保器ハ久キニ耐ヘサルカ或ハ其力十分ナラス。ニロップ、ヘザア、ビッグ、スタッフ等ハ適當ノ直保器ヲ案出セリ、第三百十七圖ニ掲ケルハ最モ適當ナルニロップノ彈力性直保器ニシテ骨盤帶ト横桿、腋窩挺杖及肩胛固定器ヲ具ヘテ後方ニ向ヒ射彈スル後背副木トヨリ成レリ、而シテ胸廓ハ之レカ爲メ壓迫セラル、コナシ。

職業的老年脊椎後彎ノ療法。ハ概スルニ效渺ナシ、且ツ之ヲ施行スル能ハサルヲ常トス、何トナレハ患者其業務ヲ廢スルヲ得サレハナリ、但シ本病ハ其苦痛通常輕微ナリ。

骨軟化症ニ由來シタル脊椎後彎ノ療法ハ第一ニ原病ヲ治療スヘシ(外科總論ヲ看ヨ)。

外傷性脊椎後彎ノ療法ニ就テハ第四百十章並ニ第四百四十一章ヲ參照スヘシ(脊椎折

第三百七十七圖



所謂圓背(常習性脊椎後彎)ニ用ル「ニロップ」氏直保器

傷及脱臼)。

外傷性脊椎後彎、骨軟化症、腫瘍(癌腫、肉腫)ニ原因シタル脊椎後彎又ハ護膜腫性梅毒性骨炎ニ支撐器及「コルセット」ノ必要ナルキハ概シテ後章結核性

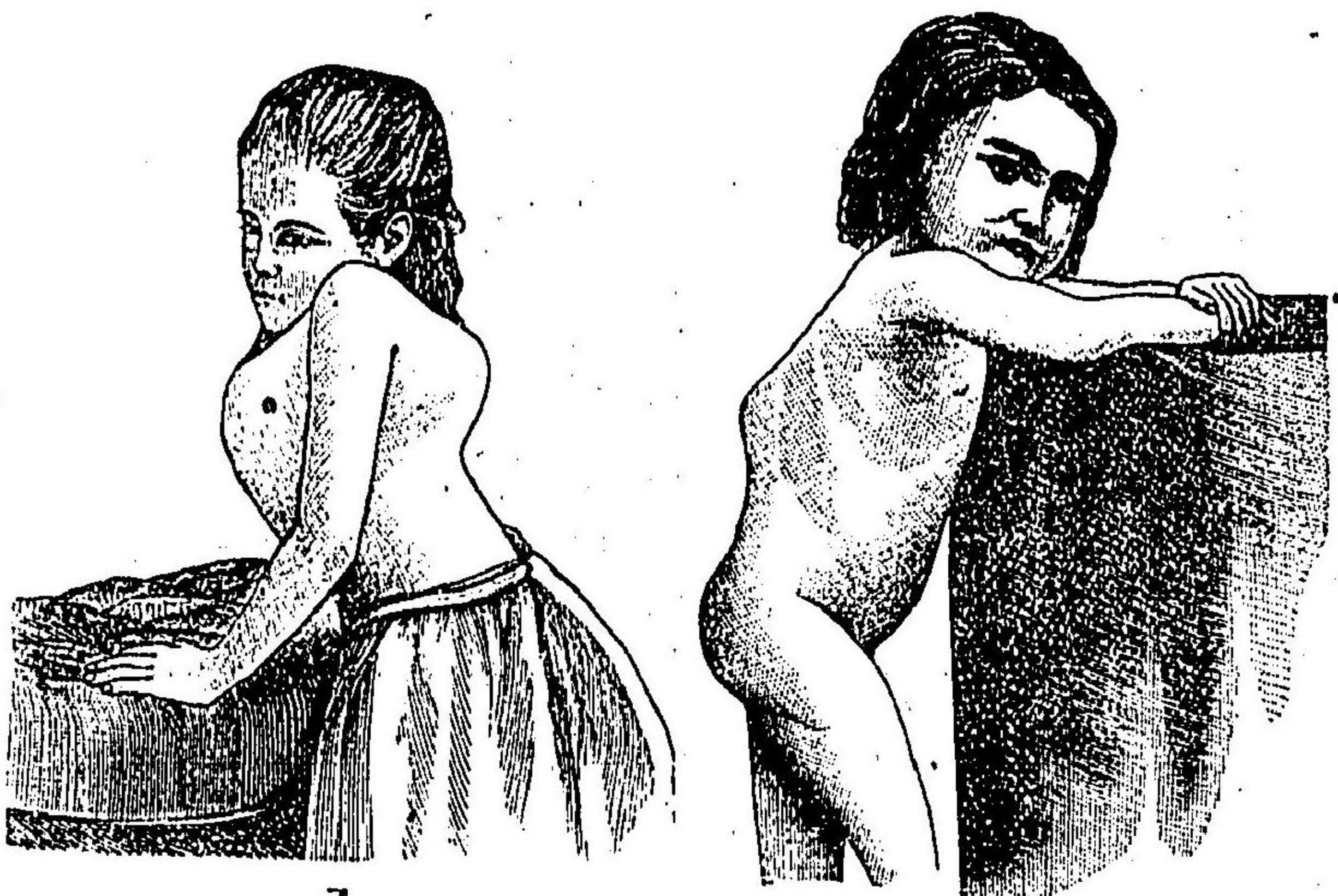
結核性椎骨炎後ノ脊椎後彎

脊椎後彎ノ條下ニ詳論セントスル規則ニ準シテ之ヲ製スヘシ。

結核性椎骨炎ノ解剖的變化

結核性椎骨炎後ノ脊椎後彎(「ポット」氏病) 此脊椎後彎症ハ骨質ヲ骨瘍性ニ崩壞セシムル椎體及韌帶板ノ結核性疾患ニ原因シタルモノニシテ其著明ナルモノハ脊椎ノ屈折即チ角度狀彎曲ヲ起ス(第三百十八圖(甲)及(乙))、而シテ脊椎ノ彎曲ハ増加シ龜背ハ脊椎ノ當該患部ニ方リテ多少著シク挺出セリ。抑モ結核性骨炎ハ千七百八十二年英國ノ外科醫「ポット」氏創メテ詳述シタル所ニ本病ヲ「ポット」氏病 Malum Pottii ト稱スルハ之カ爲メナリ。然レモ此疾患ハ古代ニ於テモ亦知悉セラレシモノナリ。而シテ此變形即チ結核性脊椎炎ハ三歳乃至十歳ノ小兒ニ最モ屢發生シ十五歳以上ニハ稍稀ナリ、チーベルノ計算セル所ニ據レハ十五歳以上ノ少年ニ發セシハ二百二十八ノ例中僅カニ二十八ニ過キサリシト云フ、童子ハ童女ヨリ之ニ罹ルコト多シ。結核性椎骨炎即チ結核性脊椎後彎ノ解剖的變化ハ次ノ如シ、本病ハ結核性骨髓炎

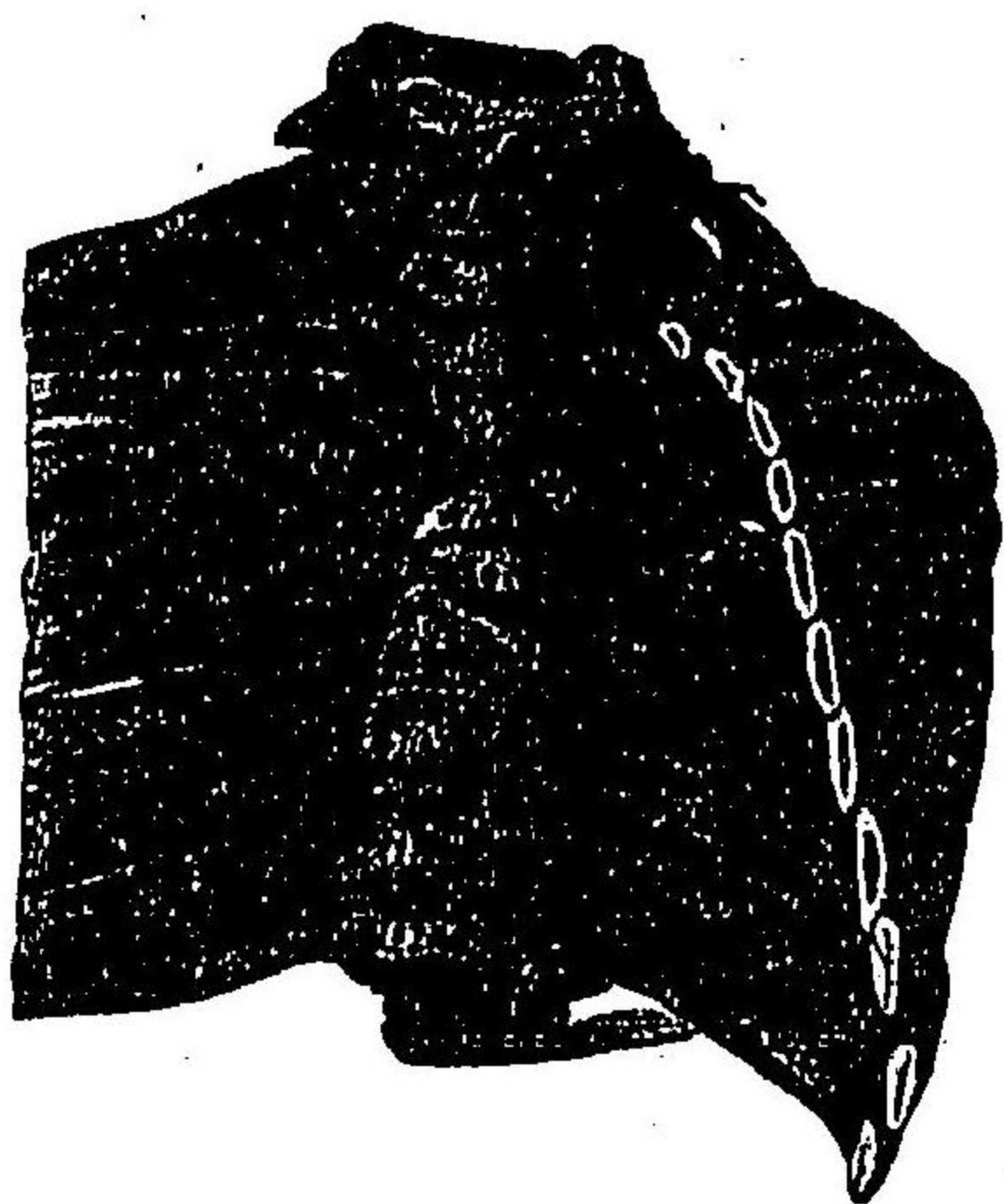
第三百八十八圖



甲 乙 結核性脊柱後彎

或ハ椎體ノ骨膜炎ト爲リテ發スルコト最モ多ク、韌帶板脊椎關節或ハ椎骨關節突起ニ發スルハ稍稀レナリ。頭ヲ運動スル關節裝置即チ載域後頭關節ノ結核性炎モ亦特殊ノ趣味アリトス、是レ殊ニフオン、ベルグマンカ詳論シタル所ノモノナリ(フオンベルグマン、ウ、エルブ及ウンケルノ編輯ニ係ル臨牀講義録第一號ヲ看ヨ)。而ノ椎體ノ結核性骨炎ハ骨瘍性崩壞即チ缺損ヲ起スモノニシテ、脊柱ハ之ニ由リ多少陷落ス。炎症ノ廣狹ハ極メテ差等アリテ經過ハ多クハ慢

第三百九十圖



第四乃至第九胸椎ノ蔓延性結核性椎骨炎 (萊府大學病理解教室所藏)

ス。之ニ由リテ崩壞較著ト爲リ全椎骨骨瘍ノ爲メ全ク消滅スルニ至ルコトアリ。第三百十九圖ニ於テハ五六胸椎ノ幾ント全部及七、八、九胸椎ノ大部結核性骨瘍ノ爲メ崩壞セリ。長キ管狀骨ニ於ケルカ如ク之ニ在テモ亦骨端離解ヲ起スコトトノ之アリ。骨質ニ於ケル崩壞大ナルニ準シ脊柱ノ後彎性屈曲即チ龜背益々著明ト爲ル。然レモ新生シタル骨質結核菌ヲ圍擁シ或ハ甲椎ヨリ乙椎ニ達スル骨板ノ爲メ屈曲ノ増進防遏セラル、コト稀ナラス、然ルキハ患部ニ於ケル脊柱ノ屈曲ニ應シ代償的反對彎曲ヲ起ス

性ナリ。間、椎體ノ大部骨瘍ノ爲メ比較的速ニ破壞スルコトアリ、或ハ腐骨ヲ藏シタル包裹性乾酪竈數年ノ久シキ椎體中ニ存在シ而モ脊柱後彎發セサルコトアリ。他ノ症ニ於テハ結核性崩壞暫時ニシテ椎體ヲ穿破シテ韌帶板ヲ侵蝕シ近位ノ椎骨ニ傳播

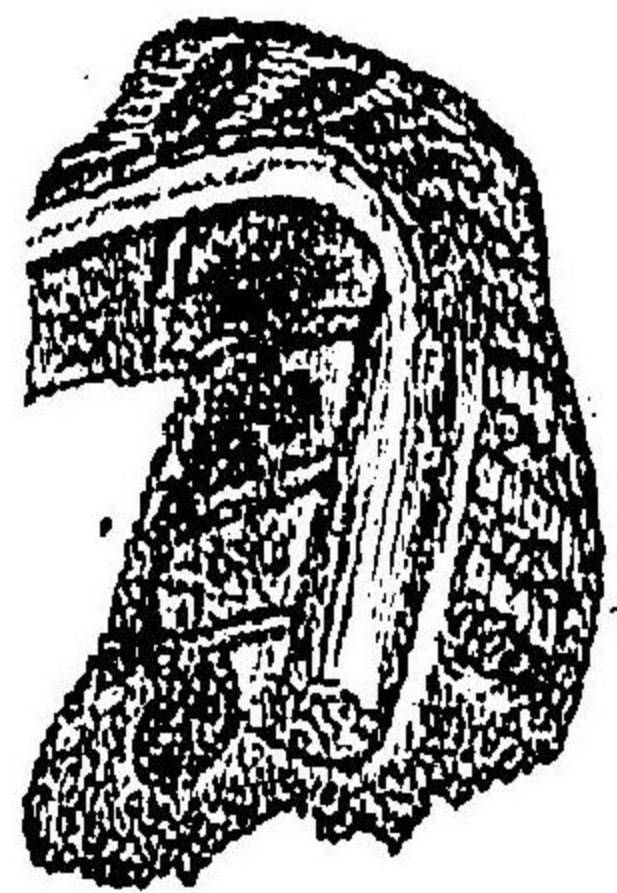
結核性椎骨炎ニ於ケル下垂膿瘍

モノトス例へハ胸部脊柱ノ後彎ニ頸部及腰部脊柱ノ前彎續發スルカ如シ。結核性椎骨炎ニ於ケル其他ノ解剖的變化ニ就テハ先ツ所謂寒性下垂膿瘍(鬱積膿瘍)ヲ掲ケサル可ラス、此症ハ間、著明ナル膿液溜溜ヲ起スヲアリ、此溜膿ハ其重量ト解剖的關係トニ由リ下方ニ沈降スルモノトス。殊ニヘンケ、ケーニツヒ、ゾルトマン等ノ示シタルカ如ク罅隙、筋膜及腱鞘ノ布置ハ此膿瘍ノ蔓延ニ關スル所大ナリ。上部頸椎ノ膿瘍ハ咽後膿瘍ト爲リテ露出シ咽頭ノ粘液膜ヲ隆起セシメ其大サニ準テ呼吸及嚥下ノ困難ヲ起ス。加之若シ膿瘍俄然破裂スルカ或ハ狼リニ之レヲ截開スルルハ膿液氣道内ニ吸入セラル、ニ由リ患者窒息スルヲアリ(前章ヲ參照スヘシ)、又頸部脊柱ノ鬱積性膿瘍頸ノ側部例へハ僧帽筋ノ前際、鎖骨上窩ニ於テ外方ニ破潰スルヲ時トノ之アリ。頸椎及上部胸椎ノ下垂膿瘍ハ稀ニ腋窩ニ沈降シ或ハ肋骨ヲ傳テ遊走シ背部若クハ胸部ノ皮下ニ露ハル、ヲアリ。肋膜ヲ穿孔スルハ破格ノミ。

源ヲ胸椎ニ發シタル膿瘍ハ路ヲ下方ニ取り大動脈ニ沿フテ腹腔ニ出テ次テ大腰筋ヲ傳ヒ「ブーバルト」靭帶下ニ於テ股輪ヲ經由シテ終ニ上腿ニ達スルヲ最モ多シ。此際亦大腰筋ノ多少膿潰スルヲアリ(結核性續發性大腰筋炎)、此大腰筋ニ沿フテ蔓延スル結核性膿瘍ハ比較的速ニ上腿ヲ收縮位ニ陷キテシムルモノニシテ股關節炎ト誤診ヲ來スヲ稀ナラス。間、下垂膿瘍上腿ニ於ケルノミナラス「ブーバルト」靭帶ノ上際ニ方レル鼠蹊部ニ於テ外方ニ破レ又陰囊内ニ決シ或ハ小骨盤内ニ入り大坐骨截痕ヨリ之

脊柱後彎ニ於ケル脊髓及神經根ノ状態

第三百二十圖



胸椎ノ結核性崩壞ヨリ起レル重直脊柱後彎ニシテ而モ脊髓壓迫セラレシ且ツ麻痺起ラサリシモノ

ヲ辭去スルヲアリ。此種ノ例モ亦頗ル股關節炎ト誤リ易シ。時トシテ膿瘍肋骨ヲ傳テ蔓延シ背部及胸部ノ皮下ニ露ハル、ヲアルト其膜腔内ニ破潰スルノ極メテ稀レナルトハ上段ニ開載セリ。腹腔内ニ於テハ膿瘍腸管膀胱及直腸内ニ破ル、ヲアリ。結核性直腸膿瘍ハ脊柱ノ骨瘍ニ續發シタル結核性下垂膿瘍ノ爲メ諸處ニ發生ス。血管例へハ脊椎動脈及大動脈モ亦化膿ノ爲メ壞爛スルヲアリ。

其他脊髓及椎間孔ヲ穿通セル神經根ノ状態ハ貴重ナリトス。屢々脊柱ノ屈曲頗ル著明ナルニ拘ハラヌ脊髓克ク變形ニ調節シテ毫モ障礙ヲ現ハサルヲアリ(第三百二十圖)脊柱後彎ノ緩慢ニ増進シタルキ殊ニ然リ、之ニ反シ脊柱ノ屈曲急劇ニ發生シタルキハ多クハ脊髓壓迫ノ危険アリ、則チ斯ノ如キ場合ニハ脊髓ノ軟化及結締組織變化(チー、アル、エリョット)、上行性及下行性變性ヲ伴フ壓迫性脊髓炎發生スルヲアリ。變性ハ顯微鏡下ニ檢スルニ主ラ間質結締組織ノ増息ヲ兼テタル神經質ノ脂肪變性ナリ。

又膿瘍及肝狀ニ肥厚シタル脊髓膜ノ脊髓ヲ壓迫スルヲアリ。其他脊髓及其被膜俱ニ進行性結核性疾患ノ侵ス所ト爲リ膿瘍脊椎管内ニ破潰スルヲ往々ニ之アリ。總テ上來記載シタル偶發症ノ發生スル

ト否トハ疾患ノ強弱ト所在トニ關スルモノニ其續症ハ全性或ハ不全性麻痺ナリ、此麻痺ハ例ヘハ摩削、膀胱炎等ノ爲メ患者ノ終焉ヲ促カスモノトス。反射興奮性ハ通常著シク亢進シ四頭股筋腱ヲ打撃スルキハ彎曲シタル下脚活潑ニ躍上ス(上章ヲ看ヨ)。

終リニ臨ミ猶ホ記載セント欲スルハ胸廓及骨盤ノ續發性變化ナリ、則チ胸廓ニ於テハ殊ニ左右ノ肋骨脊柱後彎ノ強弱ニ準シテ多少近接シ(第三百二十一圖)屢龍骨狀鳩胸(第三百十八圖〔乙〕)ヲ呈ス、而シテ狹窄愈劇シキハ益々肺臟及心臟ノ官能障礙ヲ起ス。ランチルロンクハ大動脈ノ毎ニ發病、椎體ノ前面若クハ膿瘍前壁ニ癒着シ多

第三百二十一圖



結核性椎骨炎
ニ於ケル後彎
性胸廓(第三
百十九圖)後
彎(萊府大學
病理教室所
藏)

少屈曲セルヲ發見セシト云フ。血行障礙ハ之レニ由テ亦發生スルコトアリ。所謂脊柱後彎性橫徑狹窄骨盤ハツワイフェルノ說ニ從ヘハ腰椎或ハ腰椎及薦骨ノ後彎ニ發スルノミ、斯ノ如キ後彎

結核性椎骨炎
即チ脊柱後彎
ノ症候經過及
診斷

ノ爲メ薦骨岬ハ後下方ニ壓迫セラレ薦骨ハ負擔力ノ方向變化スルニ由リ楔子ノ作用ヲ起ス、而シテ左右ノ大腿骨ハ上部ニ於テハ壓排セラレ骨盤出口ニ於テハ相近接セントス、是レ骨盤出口橫徑ニ狹窄スル所以ナリ。

結核性椎骨炎ノ症候ハ上條論述シタルモノニ注目スルキハ自ラ明カナリ。最モ貴重ナルハ龜背下垂膿瘍及脊髄並ニ其神經ノ障礙トス。發病ハ多クハ極メテ緩慢ニシテ、初メニハ通常患者輕度ノ疲倦ヲ感ス、例ヘハ坐居ノ際脊柱久時體重ヲ負擔シタルキ然リ、又疼痛アリ殊ニ脊柱ヲ動搖スルキ發生ス、故ニ患者努メテ之ヲ避ケントス。將來ニ及ンテハ脊柱例ヘハ頸部脊柱連動ヲ失シテ固定シ棘狀突起ヲ壓迫スルキハ疼痛ヲ訴フ。此時期ニハ通常脊柱ノ患部ニ浮腫及腫脹アリ。椎體ノ破壞更ニ増加スルキハ脊柱漸々陥落シ強弱不定ノ後彎ヲ起ス。而シテ終ニハ上條記載シタル下垂膿瘍、脊柱及胸廓ノ變形著明ト爲リ時トハ亦脊髄ノ官能障礙ヲ起スコト既ニ述ヘタルカ如シ。經過ハ間、急性ニシテ脊柱ノ變形ヲ現ハスニ至ラスシテ斃ルコトアリ。治癒ハ其疾患ノ時期ニ關セス來ルモノニシテ廣潤ナル下垂膿瘍アルキト雖モ亦然リ、治癒ニ赴クキハ後彎ヲ貽スコトアリ或ハ否ラサルコトアリ。幸ニ治癒スルモ疾患再發シ或ハ假性ニ治癒シタルキハ粟粒結核發生スルノ危險アリ、而シテ病機ノ進行脊髄ノ侵蝕壓迫性脊髄炎及其續症、粟粒結核、内臟ノ澱粉變性、膿液ノ腸管及大血管内穿開、麻痺、ヨリ起リタル摩削等ハ之カ死因ナリ。豫後ハ已ニ論セル如ク不良ナリトス。

結核性椎骨炎ノ診斷ハ龜背(後彎)及下垂膿瘍ヲ兼テタル發育完成セル症ニ於テハ容易ナリト雖モ初期ニハ屢困難ナルカ或ハ全ク診定シ能ハサルコアリ。故ニ結核性椎骨炎ノ疑ヒアル小兒ハ裸體ト爲シ精診スヘシ。斯ノ如キ小兒ハ屈身ニ際シ頗ル特異ノ形狀ヲ呈スルモノナリ、則チ患兒ハ其脊柱ヲ十分ニ直保シ脊柱ヲ動かサスノ前方ニ傾斜シ次テ其雙手ヲ上腿ニ載セテ一身ヲ支撐ス。

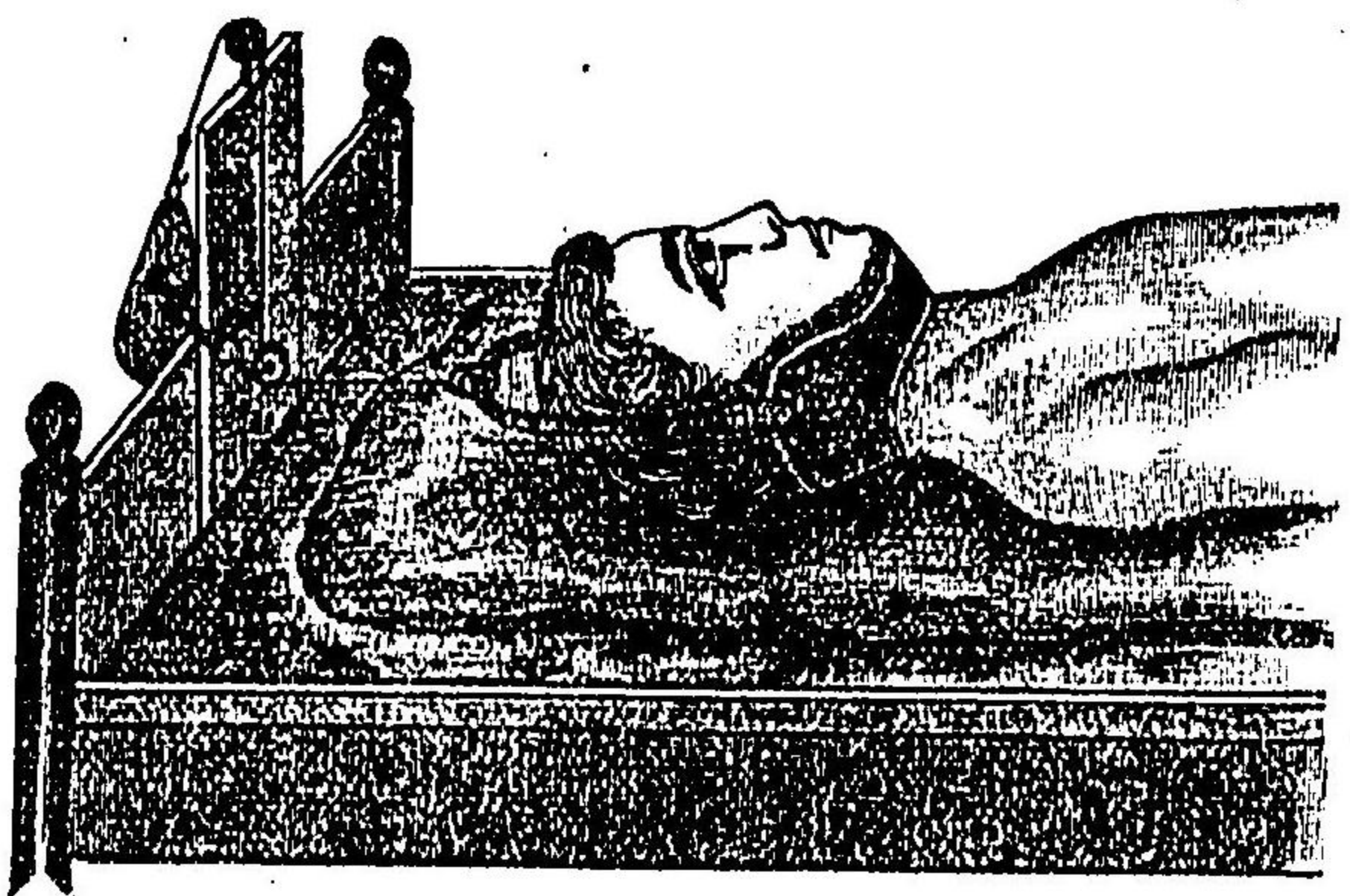
計測法ヲ行ヒテ以テ龜背ノ増減ヲ確定スルハ後彎ノ將來ヲ識ルニ重要ナリトス。側彎ニ於ケルカ如ク之ニ在テモ亦複雑ナル計測器ヲ稱用セリ。脊柱ニ沿フテ鉛線ヲ貼シ測リ得タル成績ヲ紙上ニ描寫スルキハ最モ簡易ニ且ツ十分ナリトス。

上條開載シタルカ如ク大腰筋炎若クハ前後上腿部ニ向ヒタル下垂膿瘍ニ原因シタル上腿ノ牽縮ハ股關節炎ト誤ルコアリ然レモ股關節炎ニ由ル牽縮ハ通常上腿ノ内外轉ト廻轉トヲ兼テタル屈曲ニシテ大腰筋膿瘍ニ於ケルモノハ多クハ純粹ノ屈曲彎縮ナリ。其他麻酔ニ乘シテ精密ナル診査ヲ行フキハ通常診斷其偽ヲ誤ラサルヘシ。

稀ナリト雖モ梅毒モ亦其末期ニ於テ脊柱ノ後彎ヲ起スコアリ、殊ニ椎體及椎弓ノ護膜腫性骨髓炎及骨膜炎ニ由ルモノヲ以テ多シトス、斯ノ如キ例ハライデン、フォン、フオルクマン、ケーニツヒ、ヤズンスキ等カ報告セル所ナリ。間此方法ニ由リテ脊髓ノ壓迫性麻痺亦發生スルコアリ。梅毒性脊椎病ハ劇痛ヲ起スコ稀ナラス。

護膜腫性椎骨炎ニ續發シタル脊椎後彎
結核性椎骨炎即チ脊椎後彎ノ療法

第三百二十二圖



「ケリッソン」氏蹄係ヲ用非テ行フ椎骨炎ノ持續性牽引法

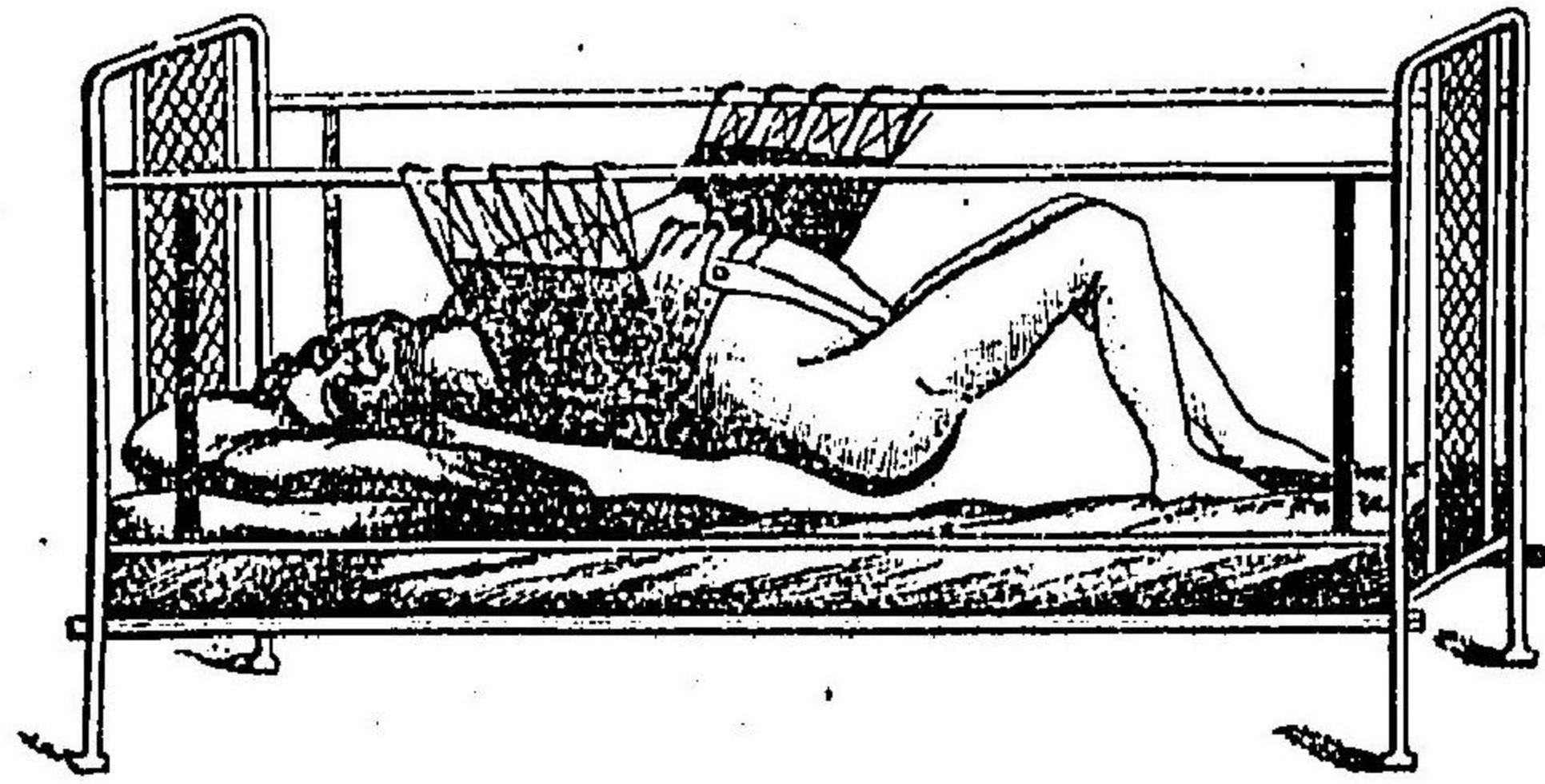
イルブローン等ハ殊ニ稱贊セラル浴場ナリ。内用ニハ時々肝油或ハ石灰劑ヲ投スヘシ。局處療法ハ初期ニハ氷嚢ヲ貼シ殊ニ「グリッソン」氏蹄係ヲ以テ重牽引ヲ行ヒテ發病脊柱ノ壓迫ヲ解キ即チ之ヲ固定スルニ在リ(第三百二十二圖ヲ看ヨ)。其際臥牀ノ

脊柱後彎

處療法ナリ。抑モ有力ノ食物ヲ給シ善良ナル空氣ニ注意シ且ツ身體ヲ強壯ナラシムル操作ヲ行ヒ以テ小兒ノ體質ヲ強健ト爲スハ諸結核病ニ樞要ナルカ如ク茲ニモ亦缺クヘカラス。頗ル稱美スヘキハ母湯浴、食鹽浴(三%ニ至ル)及海水浴。南地、高山療養所ニ於ケル住居トス。浴場ニ就テハ沃度及貌羅謨含有泉頗ル好評アリ、クロキツ

ナツハ、ナウハイム、オエインハウゼン、ライヘンハール、ハ

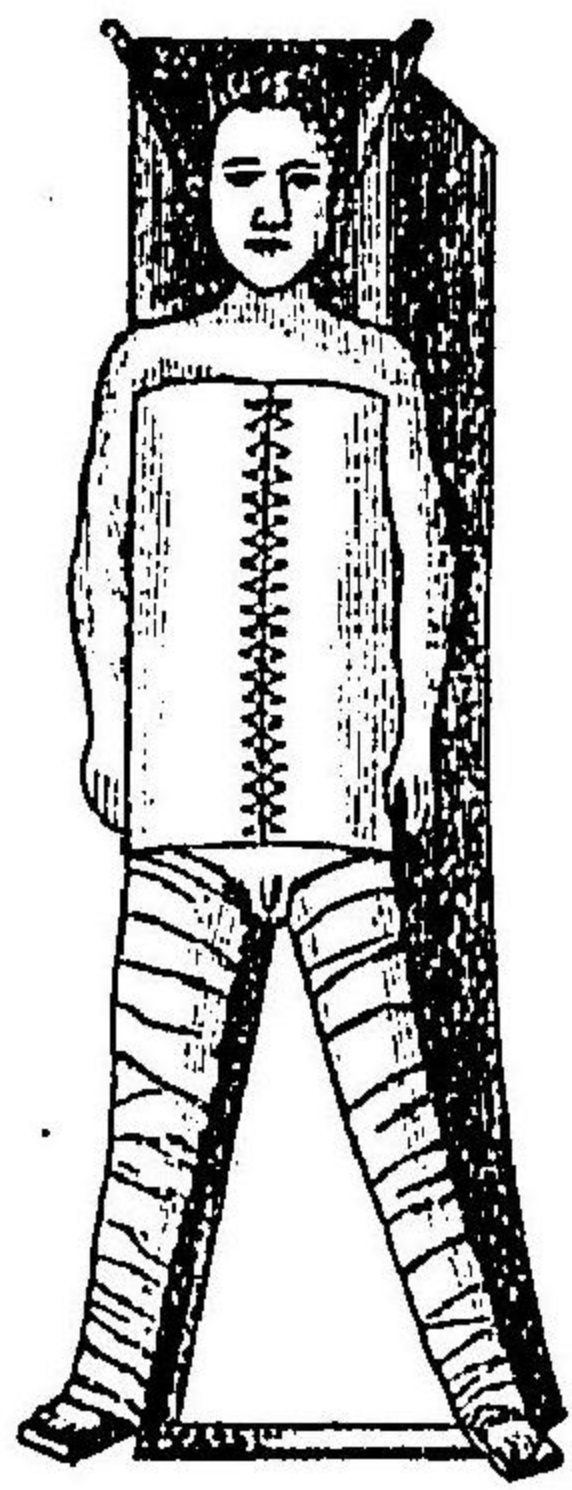
第三百二十三圖



結核性椎骨
炎患者ヲラ
ウホフース
ノ浮動帶上
ニ靜置シタ
ルモノ

頭端ヲ高舉シ以テ體重ヲシテ反對
牽引ヲ營マシム。重錘ノ輕重ハ宜
シク患者ノ年齢ニ準スヘシ、即チ
小兒ニ於テハ多クハ三乃至四磅又
大人ニ於テハ六乃至八磅ヲ以テ足
レリ。脊柱中央部ノ疾患ニハ小兒
ヲラウホフース氏浮動帶上ニ安
置スルヲ妙ナリトス(第三百二十
三圖)。此裝置ハ多クハ各兒牀ニ設
ケ易シ、而シテ此靜置法ヲ以テスル
ハ十分ニ脊柱ノ壓迫ヲ解キ即チ
之ヲ牽引スルヲ得ヘシ。龜背部ニ
瘻創ヲ生セサラシメンカ爲メ帶ニ
適當ノ孔穴ヲ穿チ又小兒ヲ更ニ安
全ニ固定セントスルハ肩胛帶及

第三百二十四圖



小兒ノ結核
性椎骨炎ニ
用ルル「フエ
ルプス」氏
立牀

充填シタル木纖維綿
若クハ澱枕子上ニ靜
置スルハラウホフ
ース氏浮動帶ヲ用
キタルト類似ノ效力
アリ。嬰兒ニハフェル

支撐器

ブスノ立牀(第三百二十四圖)ヲ頗ル適當ナリトス。是レ木造板ニノ臂、肛門及足踵
ニ應スル截痕ヲ具ヘ「ユート」枕子或ハ緻密ノ物質ヲ以テ掩ハレ兒頭ハ被帽或ハ「グ
リッソン」氏蹄係ニ由リ軀幹ハ革製ノ胴衣ニ因リテ固定セラレ四肢ハ「フヲネル」縲
帶ヲ以テ纏絡セラル。而シテ小兒ハ八日毎ニ臥牀ヲ更ヘサル可ラス、又下肢ハ關節ヲ自
働的及他働的ニ運動セシメンカ爲メ日々新タニ纏絡セサル可ラス殊ニア、ローレン
ツカ稱用シタルカ如ク義布斯製臥牀モ亦頗ル適當ナリ。嬰兒ニ於テハ殊ニ然リ。

小兒チンテ道進スルヲ得セシムルニ稱用シタル支撐器ハ其數極メテ多シ、就中最モ有名ナルハテイロルノ
裝置(第三百二十五圖)ナルヘシ、此裝置ハ二個ノ「ヘロツテ」ノ彈力ニ由リテ脊柱ノ風曲ヲ平均スルモノニシ
テ初期ノ後彎ニ適スルノミ。携帶ニ便ナル裝置ニシテ頸部脊柱ヲ固定シ且展伸スルニハ第三百二十六圖ニ示セ
ルグリッソン氏ノ裝置ヲ用ルルカ或ハ第三百二十七圖ニ示セルテイロルノ展伸裝置ヲ用ルルハ成功スヘ
シ。然レ此等ノ諸支撐裝置ハ近世義布斯及毛絨「コルセツト」ノ爲メ頓ニ其聲價ヲ失ヘリ、是等「コルセツ
ト」ノ質地外科中ニ輸入セシハセルノ功多キニ居レリ、蓋シ展伸裝置ヲ具ヘタル義布斯及毛絨「コルセツ

脊椎後彎ニ用
非ル義布
「コレセット」

圖五十二百三第



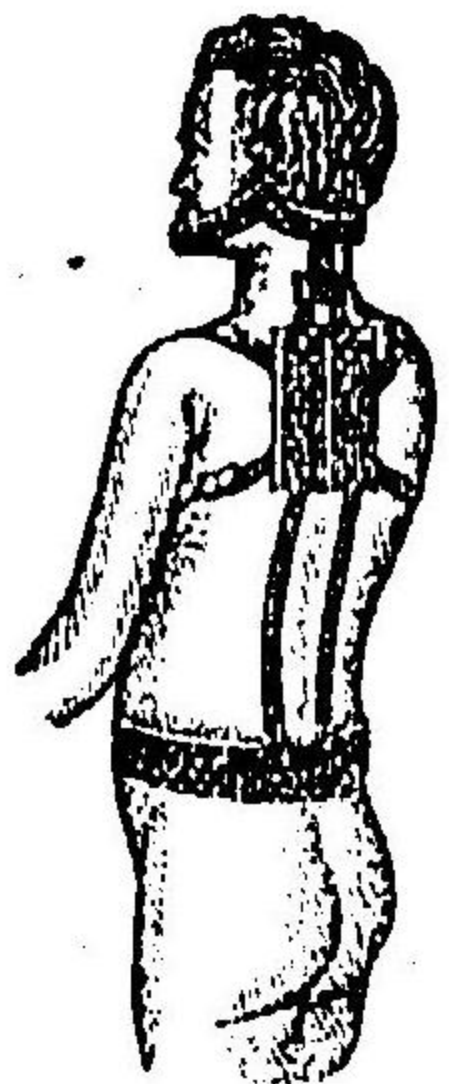
初期ノ脊
柱後彎ニ
用非ル
「テイロ
ル」氏ノ
發條製置

圖六十二百三第



頸椎ノ固
定ニ供ス
ル「グリッ
ソ」氏
展伸製置

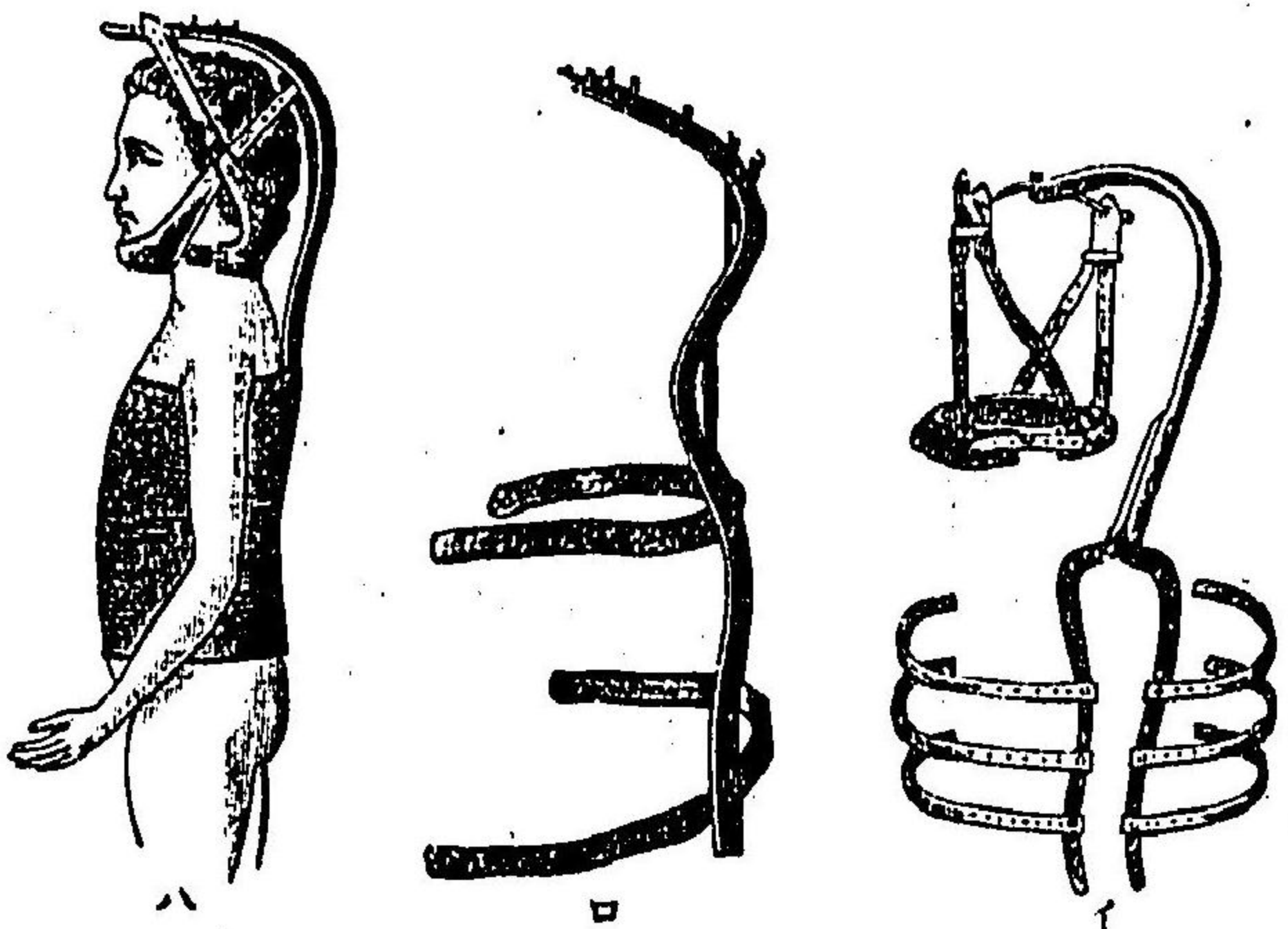
圖七十二百三第



頸椎ノ固
定ニ供ス
ル「テイ
ロル」氏
製置

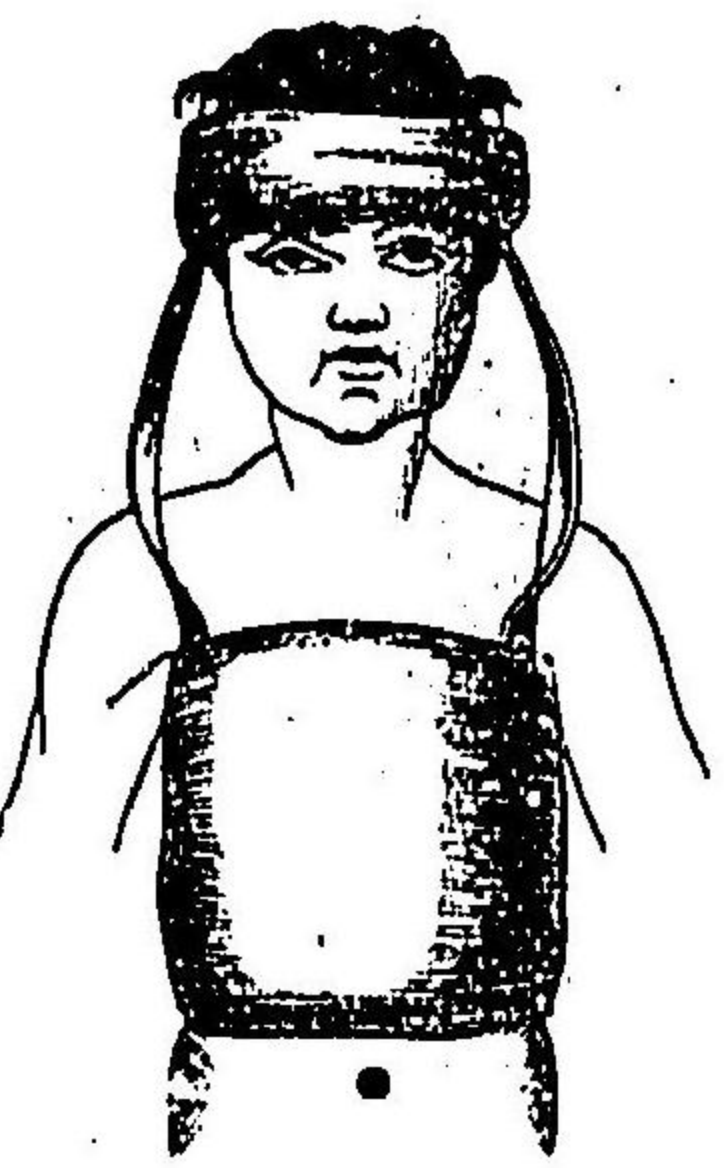
トノ作用ハ殊ニ「フォン、エスマルク、マ
ーデルング、チーベル」等ノ既キシカ如ク
極メテ有益ナリトス。
脊椎後彎ニ應用スル義布「コレセット」ハ「コ
ルセット」ノ製法ハ大抵上鞆側彎ノ條下ニ
記載シタル規則ニ準スヘシ、故ニ此處ニ
ハ次ノ件ヲ約説スルノミ。
後彎ニハ頸椎ヲ極メテ適度ナラシメサル
可カラズ、又毎ニ現在ノ後彎ヲ粗ク平均
セシメントスル勿レ。「コレセット」ハ側
彎ニ於ケルカ如ク此ニモ亦「ヘーテルセン
等」ニ倣ヒテ頭及骨盤ヲ下肢ト俱ニ各々
上ニ安シシ細帯ヲ用非テ龜背部ヲ支フル
ニ患者ノ地平位ニ於テ施スヲ得ヘシ、此
細帯ハ義布「コレセット」ニ以テ封スヘシ、龜背部ノ
壓迫ヲ避ケルニハ肉彩ノ内面ニ毛絨板或
ハ火綿ヲ縫着スヘシ。而シテ「コレセット」
ハ前ハ凡ソ乳頭ノ上部ニ達シ後方ハ肩胛
板ノ下半ヲ推ハサル可ラス。義布「コレ
セット」硬化シタルハ可及的患者ヲ平

圖八十二百三第

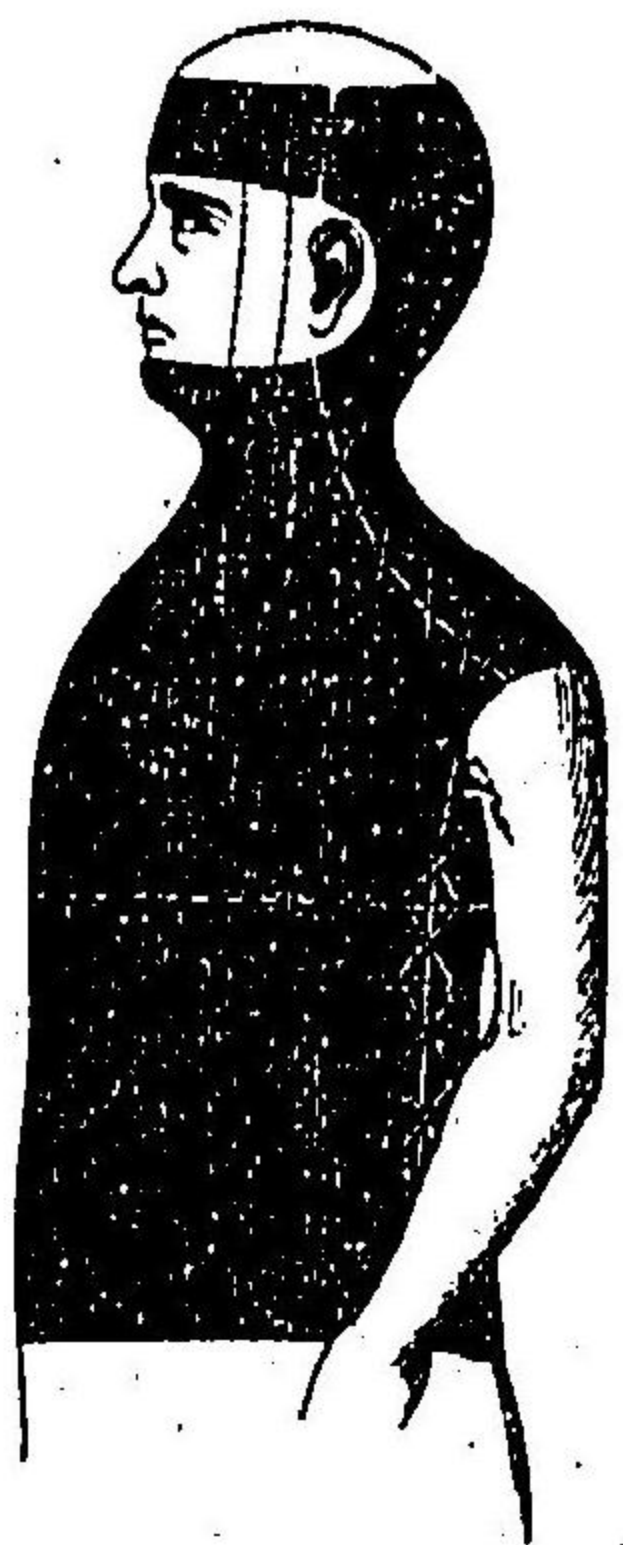


頸椎炎及胸椎
炎ニ於テ「ノ
ートマスト」
「コレセット」
「セール」氏
「シユリーマ
スト」ヲ以テ
頸部脊柱ヲ固
定シ且展伸ス
ル法
「イ」セールノ
「ロ」及
「ハ」フーベル
ノモノ

布ヲ以テ環ヲ封シ之ニ展伸螺絲ヲ固定ス（「ロ」ト、スチルマン）。頸椎炎及胸椎炎ニ於テ頸部脊柱ヲ固定シ
且ツ展伸スルニハ第一ニ所謂「ノートマスト」コレセット」ヲ應用ス可シ、是レ所謂「セール」ノ「シユリーマスト」
（第百二十八圖「イ」）即チ三條ノ彎曲シタル鐵桿ヲ具ヘタル直角性鐵把ニ義布「コレセット」ヲ以テ胸圍ニ於テ義布



頸椎炎ニ於テ
橋狀義布新綿
帶ヲ以テ頭部
脊柱ヲ固定ス
ルヘルゲルノ
法



頸椎炎及胸椎
炎ニ用ル
シエーンボル
ン及フアルク
ソノ脱除性
水硝子綿帶

トニ各一條ノ義布新綿帶ヲ施シテ頭部脊椎ヲ固定シ義布新ヲ以テ封シタル二條ノ紐鐵ヲ以テ兩義布新綿帶
ヲ連絡スルヲ稱美セリ(第三百二十九圖)。此橋狀義布新綿帶ハ蓋上ニ坐シタル患者ヲ少シク懸吊スルハ
費用セシムルヲ得ヘシ。

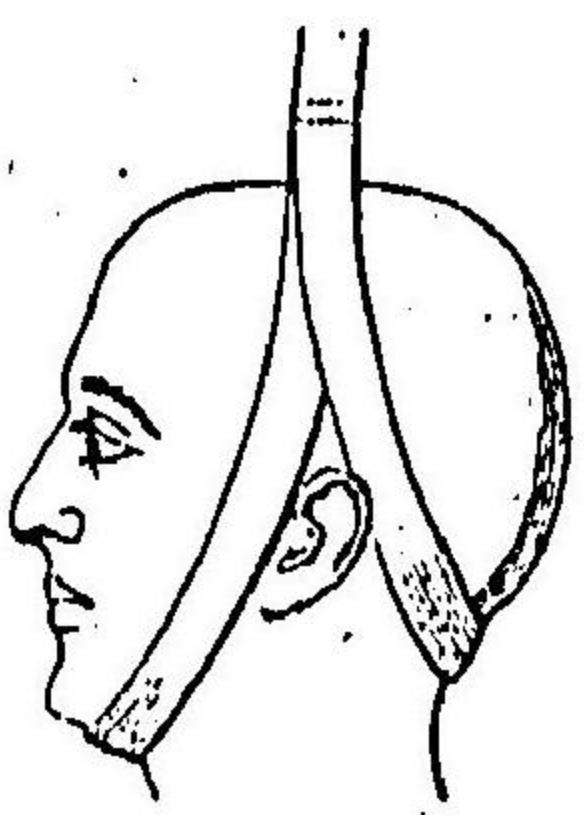
水硝子「コレ
セット」

側彎ニ於ケルカ如ク後彎ニ於テモ亦水硝子「コレセット」ヲ應用セリ。其下層ニハ「フランチル」綿帶ヲ挿フヘ
シ。而シテ第一ノ水硝子綿帶ハ水硝子ヲ含ム「甚々シキ」ニ至ラシムル勿レ。水硝子「コレセット」ヲ其位置ニ固

圖九十二百三第

圖十三百三第

定スルニハ三乃至四ノ義布新綿帶ヲ施シ二三日間放置スヘシ。綿帶ハ製靴用薄板或ハ椶風性アル鐵製副木
ヲ以テ堅牢ナラシムルヲ得シエーンボルン及フリルグリンハ頸椎炎及胸椎炎ニ豫メ製シタル義布新綿帶ニ
擬シテ造リタル頭、頸及腰背ノ水硝子綿帶ヲ施セリ。此綿帶ニハ絲ヲ貫キ内面ニ「フランチル」ヲ以テ蓋ヘリ。
其製法義布新綿帶ハ輕ク懸垂シ蓋上ニ坐シタル患者ニ頭、頸及胸部ヲ乳頭ノ下際ニ至ル迄(第三百三十圖ノ
點線ヲ看ヨ)施スヘシ。患者ノ頭毛ハ豫メ剃去シ展伸ニハ炭酸鉛膏ヨリ製シタル頤項蹄係ヲ行フヘシ(第三



圖一十三百三第



圖二十三百三第

毛絨「コレ
セット」

脊柱ノ牽引ニ用
ル炭酸鉛ヨリ
製セル「フアルク
ソ」ノ頤項蹄係
頸椎炎ニ於テ頭
部ヲ固定スルニ
供スル「ドッパ
ル」イスト「シエ
リ」イスト「チ備
ヘタル毛絨「コレ
セット」

百三十一圖)。義布新綿帶硬化
シタルハ之ヲ截斷シ除去シ
義布新綿帶ヲ以テ復タヒ之ヲ
接合セシメ次テ義布新ヲ以テ
之ヲ縛造ス。既ニソノ六乃至十
二時間ヲ經ルハ義布新綿帶
ヲ除キ第三百十一圖ニ隨ヒ義
布新綿帶ニ擬シテ水硝子綿
帶ヲ造ル。
毛絨「コレセット」ハ、主ラ上
章側彎ノ條下ニ記載シタル
方法ニ隨ヒテ製スヘシ。此
「コレセット」モ亦絲ヲ繫若
スルニ適セシメ且ツ時トシ
ハ頭ヲ固定スルカ爲メ一條

ホ井ス子ル氏
後遺ニ稱用セリ。

或ハ二條ノ「シェリマスト」ヲ具フヘシ、マールンク、フオグト、ペーリー等ハ毛絨「コルセット」ヲ殊ニ後遺ニ稱用セリ。
ホ井ス子ルハ椎骨骨瘍ニ一種ノ支撐用衣ヲ用非タリ是レ柔軟ナル毛絨ヲ以テ下層トシ「ガーゼ」綿帶ヲ其周圍ニ三四層纏繞シタルモノニ綿帶纏繞間ニハ掌幅ノ柔軟ナル蘆網板ヲ挾ミ腸骨櫛ニ沿行セル部分ニハ毛絨ト網トノ間ニ一片ノ太キ腹膜管ヲ裝置ス、此腹膜管ハ纏繞ノ際軟部ヲ緊縮シ以テ「コルセット」ノ滑脱ヲ防クモノトス。背ノ支撐ニハ腋窩支撐或ハ彈力性鋼性支撐ヲ綿帶中ニ密封シ又頭ハ項部ニ横桿ヲ具ヘタル鐵條ヲ以テ支フヘシ。

結核性椎骨炎
即チ脊柱後彎
ノ爾餘ノ療法

膿瘍、開放シタル骨瘍部ニハ必スシ「モ」コルセット」ヲ禁忌スルヲ要セス斯ノ如キ場合ニ於テハ有窓「コルセット」ヲ若クシムルカ或ハ制腐的蓋膜綿帶上ヨリ之ヲ施シ其造構ヲシテ脫除ニ便ナラシムヘシ。
結核性脊椎炎即チ脊柱後彎ノ爾餘ノ療法ハ主ラ症候的ナリトス、有力ノ食物ヲ給シ、善良ナル空氣ニ注意シ、食鹽浴ヲ取ル等ノ全身療法ハ時期ヲ擇ハス椎骨炎ニ極メテ樞要ナルハ上條既ニ開載シタル所ナリ。寒性膿瘍ハ往時ノ如ク放置セスノ防腐的ニ截開シ鉛匙ヲ以テ爬搔シ次テ排膿管ヲ挿入スヘシ。巨大ナル遊走性膿瘍ハ套管鍼ヲ以テ穿刺スルカ或ハ刀ヲ刺通若クハ空洞鍼ヲ以テ穿刺シタル後吸引器ヲ以テ空虚ト爲シ次テ千倍乃至五千倍ノ昇汞水ヲ以テ十分ニ洗滌シ沃度仿謨ト偲里設林ト混合物（十ト九十或ハ沃度仿謨十分、水及偲里設林各五十分）ヲ注入スヘシ（「シーデー」、リス、テル、ペ、ブルーンズ、アンドラスター）。「ペ、ブルーンズ」ハ穿刺ト沃度仿謨ト偲里設林混合物ノ注入トニ由リテ二十例中二十例ヲ全治セシムルヲ得タリト云フ。必要ア

椎骨骨瘍ノ手
術療法

ラハ大約二三週内更ニ注入ヲ行フヘシ。咽後膿瘍ヲ截開スルニ臨ミテハ小兒氣道内ニ膿液ヲ吸入シテ窒息セザランカ爲メ注意スヘキハ既ニ上章ニ論シタル所ニシテ且ツ斯ノ如キ膿瘍ハ如何ニノ截開スヘキカハ亦前章ニ記載セリ。腸骨櫛ノ上部ニ位シタル大腰筋膿瘍ハ腸骨櫛ニ平行シテ截開シ後方方形腰筋ニ沿フテ對孔ヲ開クヘシ、予近時結核性椎骨炎ニ消毒シタル堅牢ナル空洞鍼ヲ以テ十％ノ沃度仿謨偲里設林混合物ヲ患者ノ年齢ニ應シ二乃至四十瓦許患部ニ注入シテ頗ル佳良ノ成績ヲ得タリ。

椎體爬搔法

病竈ノ手術的療法ハ近世漸ク結核性椎骨炎ニ試行セラレタリ、則チベッケルハ屍體ニ試験シ又二三胸椎ヲ爬去シテ椎體ニ達スルノ竈モ困難ニアラサルヲ示セリ。胸椎體ノ骨瘍ニ於テハベッケルニ倣ヒ肋骨角ノ内側ニ方リテ肋骨ヨリ三乃至四仙迷長ノ骨片ヲ截除スルハ肋膜ヲ剝離シタル後指頭ヲ椎體ニ送ルニ十分ナル空隙ヲ得ヘシ。大動脈、大靜脈及胸管ニ接近スルハ生體ニ於テハ敢テ處ル、ニ足ラス、何トナレハ通常膿液ノ爲メ瘻管アリテ之ヲ傳フテ椎體ニ達シ易ケレハナリ。腰椎體ハ腎臟截開ニ於ケルカ如ク薦骨腰筋ノ外縁ニ沿フテ截開ヲ行ヒ次テ結腸ノ後、腎臟ノ前ヲ深部ニ進ムルハ露出スヘシ。大腰筋膿瘍アラハ此處ヨリ分割シテ可ナリ、然ルハ大腰筋膿瘍内ヲ經テ發病椎骨ニ到ル。而シテ結核性椎骨ノ爬搔ト上條記載シタル十％ノ沃度仿謨、偲里設林ノ注入トヲ併用スヘシ。

脊柱後彎

椎體ノ鈍傷ニ於テモ亦同一ノ方法ニ隨ヒテ手術ヲ行ヒ得ルコトアリ。
若シ最況ニシテ恰好ナルキハ椎骨後部(突起及椎弓)ノ原病性結核性疾患ニモ亦手術ヲ
試ムヘシ。予ハ横穿起ト椎弓ノ一分部トヲ爬搔シ且截除シテ完全ナル持續性ノ治癒
ヲ得タリ。

椎骨炎性麻痺ニ手術ヲ行ヒテ脊椎管ヲ開クハ百策效ナク止ムヲ得サルキニ試ムヘ
キノミ、此ニ於テモ亦椎弓ノ截除ニ最モ適當セルハ硬腦膜尙ホ健全ナルキ發生シタ
ル脈迫麻痺トス。

梅毒性椎骨炎
ノ療法

梅毒性椎骨炎即チ後彎ノ局處療法ハ器結核性椎骨炎ニ同シ。而シテ茲ニハ第一ニ驅梅
療法(軟膏療法、水銀皮注入、沃度加里)ヲ行フヘシ(外科總論第八十四節ヲ看ヨ)。

脊柱前彎

第四百四十七章 脊柱前彎

Lordose der Wirbelsäule.

脊柱前彎トハ凸側前方ニ向ヒタル脊柱彎曲ノ謂ヒニシテ脊柱彎曲中最モ稀有ニ屬ス其
最モ屢々發現スル部位ハ腰部脊柱ニシテ總テ著明ノ骨盤狹窄ヲ起ス所ノ病理的變化ニ
由リテ發ス。先天性股脫臼及例ヘハ股關節炎ニ由リ起リタル下肢ノ牽縮ニ於ケル腰
部脊柱ノ代償的前彎ハ此方法ニ隨ヒテ發生スルナリ。其他殊ニ重荷ヲ抱キテ運搬ス
ルヲ業トセル者及裁縫師ニハ前彎職業病ト爲リテ現ハル但前彎ノ固定スルハ極メテ

稀ナリ。

脊柱例ヘハ腰部脊柱前彎ノ症候ハ腹壁及臀部ノ異常膨出ト腰部ノ陥没トヲ以テ主要
ナリトス(第三百二十三圖ヲ看ヨ)。

重症ノ脊柱前彎ハ終末腰椎ノ轉脫ニ由リ即チ終末腰椎上位ノ脊柱部ト俱ニ薦骨ノ基
底ヲ超エテ前下方ニ移リタルキ發生ス。而シテ腰部脊柱ハ移動増進スルニ由リ漸次ニ
小骨盤内ニ沈降シ爲メニ其基底面薦骨ノ内臟側ニ接着シ直腸ヨリ指ヲ以テ明カニ
骨縁ヲ觸ル、ニ至ル、而シテ外傷及彎形殊ニ椎體矢狀徑ニ沿フテ延長シタル第五腰椎
ノ壓迫性變形ハ脊柱轉脫ノ主因ナリ、此疾患ハ時トシテ亦脊髓癆ノ經過間ニ發スルコ
トアリ(後章ヲ看ヨ)。

脊柱轉脫ノ原因ニ就テハ諸說紛々タリ然レモ多クハ第五腰椎ノ移動ヲ以テ概シ之カ
原因ト看做セリ、然レモノイデパウエルノ說ニ據レハ脊柱轉脫ノ本態ハ第五腰椎ノ移
動ニアラスノ寧ロ常ニ椎體ノ移動ト相伴フ或ル素質的要件ニ基ツケル第五腰椎ノ壓
迫性變形ナリト。又氏ノ說ニ隨ヘハ第五腰椎弓關節間部ノ性状ハ此異常ヲ了解スル
ノ鎖鑰ナリ蓋シ第五腰椎弓關節間部並ニ全第五腰椎ハ例ヘハ外傷或ハ椎弓前後ノ骨
核癒合セサル(先天性脊柱粗解症)ニ由リテ第五腰椎弓ノ關節間部分裂セルカ爲メ矢
狀徑ニ延長セリト謂ヘリ。果シテ然ラハ脊柱轉脫ハ第五腰椎弓關節間部ノ先天性分裂
ニアラサレハ外傷性分裂即チ折傷ニ外ナラス、然レモノイデパウエルハ此脊柱轉脫

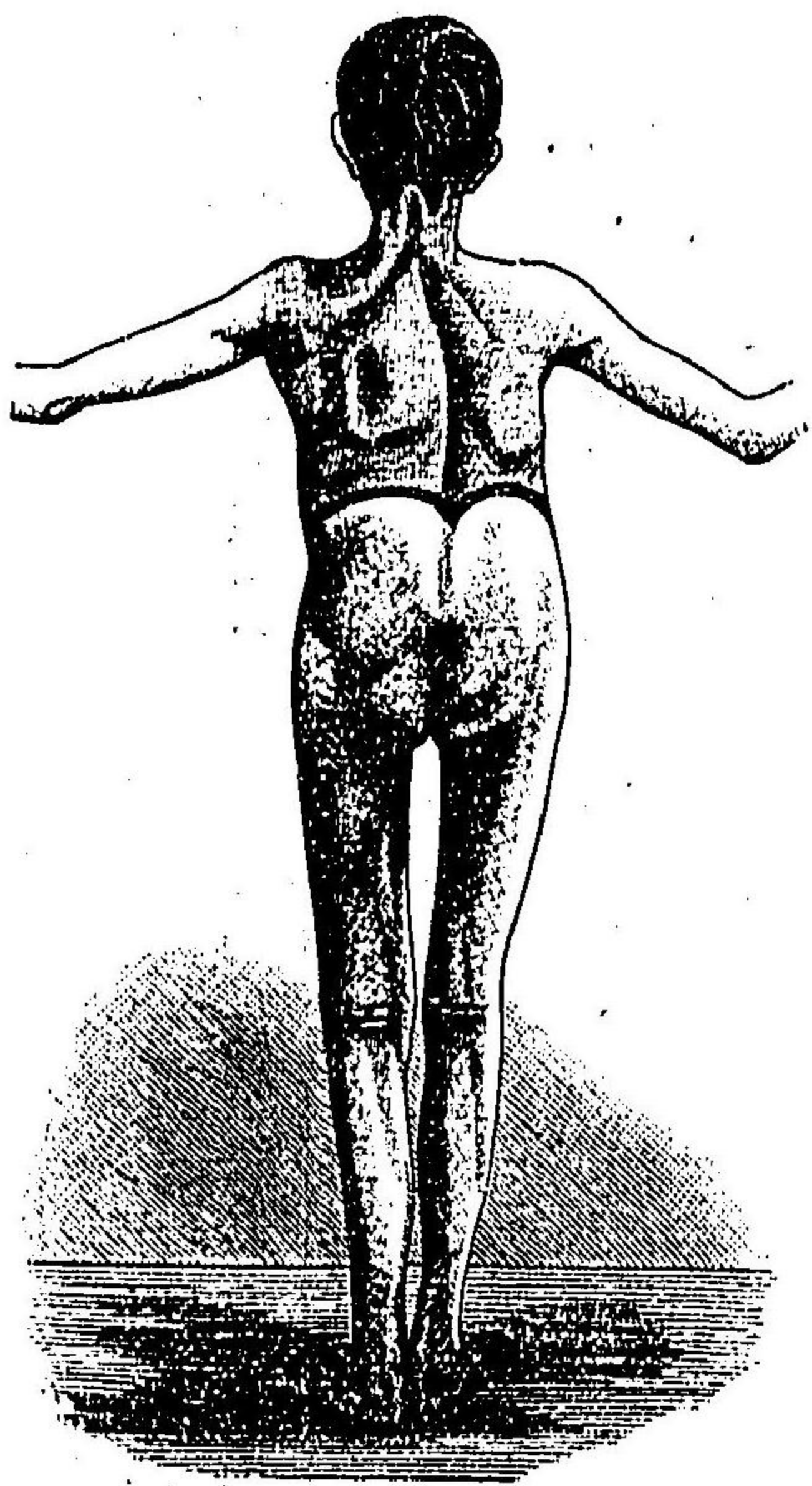
ヲ起スニハ更ニ他ノ機轉ヲ缺クヘカラス。此機轉ハ殊ニ妊娠中ニ發ス、是レ此異常ノ婦人ニ多キ所以ナリト謂ヘリ、第五腰椎弓關節間部ノ外傷性或ハ先天性缺損ナキ場合ニ於テノイゲバウエルハ薦骨上關節突起ノ横折傷モ亦變形ノ原因ト爲ルコアリトセリ。ストラッセルハ脊柱轉脫ハノイゲバウエルカ續發性ト爲シタル原發性畸形性

第三百三十三



十五歳童
兒ノ脊柱
ヲ折傷セ
シ後腰部
脊柱ノ薦
骨基底ヲ
越エテ前
方ニ移轉
シタルニ
由リ發セ
ル高度ノ

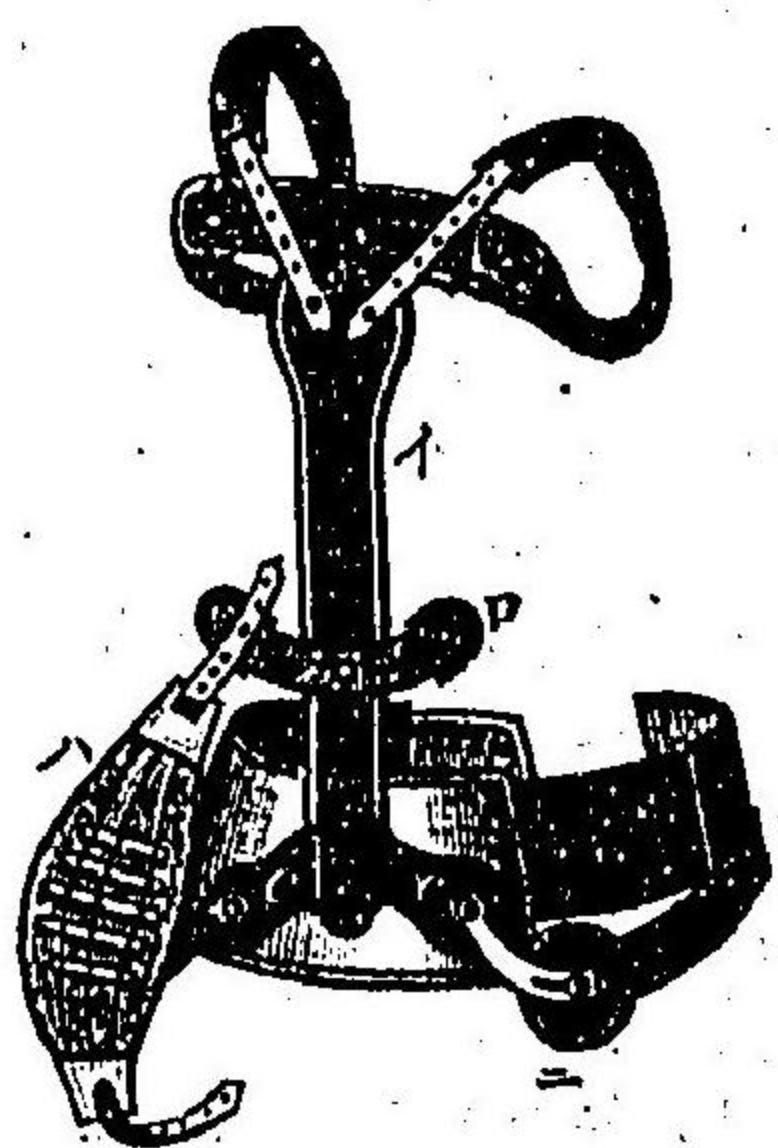
圖三十



脊柱前彎
(レ)ニ
ルカフカ
ン、フカ
クマンノ
「クリニッ
ク」ニ於
テ實驗セ
シモノ、

關節炎ニ原因スル者ナリ故ニ脊柱轉脫モ實ハ負擔性變形ト看做スヘシト云ヘリ。既ニ上條ニ記載シタル病理的變化アルハ前彎發生ノ初期ニ當リ第五腰椎ノ椎體ハ薦骨ノ前縁ニ挺出シ此處ニ於テ椎體ノ矢狀軸更ニ延長スルニ際シ椎體ノ支撐漸々減少スルニ至ルハ椎體終ニ負擔ノ爲メ逐次前下方ニ移ル然ルハ第五腰椎ノ上際ニ位セル全脊柱亦最下腰椎ニ隨フテ轉位スルハ贅スルヲ要セス。

圖四十三百三第



ニロツプ
ノ脊椎前
ニ用井
ル支撐器

レーゼルハフォン、フォルクマンノクリニクニ於テ一回重症ノ脊椎前彎ヲ兼テタル外傷性脊椎轉脱ヲ記載セリ(第三百三十三圖)。
脊椎前彎ノ療法ハ第一ニ其原因ヲ驅除スルニ在リ、又例ヘハ股關節ノ疾患ニ於ケルカ如

ク骨盤偏倚變化シタル諸患者ニハ豫防的ニ過度ノ牽縮若クハ著明ナル骨盤偏倚ヲ防遏セサル可ラス。發育シタル症ニハ體操及殊ニ支撐器例ヘハ義布希及毛絨「コルセツト」ヲ要用ナリトス。シライベルハ携帶支撐器中殊ニニロツプノ器械(第三百二十四圖)ヲ稱美セリ、是レ上部横桿、腋窩挺杖及骨盤帶ヲ具ヘタル鋼製後背副木「イ」ヨリ成レル者ニ骨盤帶ノ上部ニハ彈力性腹帶「ハ」ヲ附着シタル横形扣子「ロ」アリ、又骨盤帶ニハ臀部ニ應スル二個ノ廣濶ナル彈簧撥器「ニ」ヲ設ク。

變形性椎骨炎

第四百四十八章 變形性椎骨炎 *Spondylitis deformans*

變形性椎骨炎ハ病牀上特殊ノ興味アルモノニ解剖上ニ於テハ椎間軟骨疎解スルト脊椎前彎及側部ノ骨膜増息肥厚シ兼テ骨化骨スルヲ以テ徵候トス。又箇々ノ椎骨骨質増息ノ爲メ好テ硬ク連結シ即チ骨性癒着ヲ起ス。椎骨突起例ヘハ頸椎ニ於ケルモノ關節内ニ亦同一ノ變形的病變アリ。椎體ノ増進萎縮及彎曲軟骨ノ疎解及椎體前部並ニ側部ノ骨膜増息ニ併發シ之ニ由リ脊椎彎曲スルヲ屢々之アリ。

變形性椎骨炎ノ原因ハ變形性關節炎ノ原因ニ同シク概シテ尙ホ未タ明カナラス。而シテ此疾患ハ一部ハ自發シ一部ハ外傷ニ副發シ其他傳染性關節炎例ヘハ淋毒性關節炎及多發性關節炎ニ續發スルモノアリ。年齢ハ頗ル緊要ナリトス要スルニ變形性椎骨炎並ニ變形性關節炎ハ半ハ自發シ又半ハ偶因(外傷、傳染)ニ副發スル老人性障礙ニ外ナラス(フォン、フォルクマン)。

本病ハ通常老人ニ發生シ其經過ハ頗ル緩慢ナリ、而シテ例規トシテ慢麻質斯性ヲ帯ヒタル不定性ノ疼痛ト卍札性雜音トアリテ脊椎ヲ運動スルキハ殊ニ著明ナリ。末期ニ至テハ脊椎ノ運動減少ス此運動減少ハ殊ニ頸部脊椎ヨリ始ム。其他骨質増息ノ爲メ壓迫セラレタル脊髄神經ノ領内ハ神經痛、筋萎縮及著明ノ麻痺起ル。定型的轉歸ハ發病椎骨ノ骨質癒合ヲ以テ常トス、此骨質癒合兩箇ノ最上頸椎ニ起リタルキハ障礙殊ニ甚タシ。骨質増息ヲ外部ヨリ觸知シ得ルハ稀ノミ、是レ骨質増息ハ多クハ前面若シクハ側方ニ深處ニ位スレハナリ、然レモ咽頭或ハ頸椎ノ側部ヨリ骨質増息ヲ明カニ

變形性椎骨炎

病
脊髄癆性椎骨

觸ル、口間、之アリ。
變形性椎骨炎ノ療法ハ效驗ナシ最モ稱賛セラル、ハ體操及按摩ニシテ其他温浴、温泉、
南地滞在等モ亦然リ。内服ニハ沃度加里、鐵劑及有力ノ食物ヲ良トス。
脊髄癆ノ經過中間、椎骨ノ骨質化及軟化ヲ起シ之カ爲メ輕易ノ外傷ニ遭リ椎骨及脊髄ニ殆ント毎ニ腰椎破
折スルコトアリ(ヒートルス、ブライヤール、クレニツヒ)脊髄癆性脊骨疾患ノ病狀的經過ハ上段開載シタル脊
柱轉脫ニ同シ。

第四百四十九章

脊柱及脊髓ノ腫瘍

Geschwülste

der Wirbelsäule und des Rückenmarks.

脊柱及脊髓ノ
腫瘍

脊柱ノ腫瘍

脊髓及其被膜
ノ腫瘍

脊柱及脊髓ノ原發性腫瘍ハ極メテ稀ナリ。然レモ脊柱ニ髓性及骨膜性肉腫、粘液腫其
他外性骨腫、及軟骨腫ヲ生スルコトアリ。脊柱ノ轉移性腫瘍即チ癌腫及肉腫ハ稍多シ
是等ノ腫瘍ハ其形狀大抵多端ナリ、例ヘハ乳癌及子宮癌ニ由來シタルモノ、如キ則
チ是ナリ。而シテ椎體崩壞シタルキハ之ニ應スル脊柱後彎起リ又脊髓壓迫セラル、キ
ハ麻痺アリ。總テ椎體ニ生シタル腫瘍ニハ外科的療法ヲ行ヒ難シ。只其椎弓及其突起
トノ腫瘍ノミハ時トシテ手術的療法ヲ施シ得ルコトアリ。薦骨及尾骶骨ニ發生シタル先
天性腫瘍ニ就テハ宜シク骨盤外科ノ條ヲ參照スヘシ。
脊髓及其被膜ノ腫瘍ハ近世殊ニゴウエルス及ウカ、ホースレーカ詳論シタル所ナリ、

就中ホースレーハ創メテ手術ヲ行ヒ以テ脊髓上ニ占地シタル纖維粘液腫ヲ瘥セリ。

ホースレーハ或書ニ徴シテ五十八例ノ脊髓腫瘍ヲ蒐集シタリ、而シテ硬膜外腫瘍ハ
脂肪腫、肉腫、包蟲腫ニシテ硬膜内腫瘍ハ粘液腫、纖維腫、肉腫及砂瘤トス。其他硬膜内
及外結核病モ亦屢々實驗セラレタリ。

殊ニ不變ナルハ硬膜内腫瘍ノ症候ニシテホースレーニ據レハ其初發症候ハ疼痛ナリ、
將來ニ至リ例ヘハ腫瘍脊髓ヲ壓迫スルキハ先ツ運動麻痺起リ知覺麻痺之ニ次ク診
斷上殊ニ效益アルハ半身ノ症候他側ニ移行スルモノニシテ之ニ據レハ所在頗ル定メ易
シ。ホースレーノ說ニ麻痺症狀發生スルキハ同時ニ疼痛極メテ劇烈ト爲ルト云フ以

上ノ症候ハ硬膜外腫瘍ニ於テモ亦多クハ存在スルモノニシテ先ツ疼痛起リ運動麻
痺之ニ次ク知覺麻痺又之ニ次ク硬膜内腫瘍ハ硬膜外腫瘍ニ比スレハ通常良性ナリ、
硬膜内腫瘍ニ於テ症候ノ發生緩慢ナルハ之カ爲メナリ。

硬膜外及内腫瘍ノ爾餘ノ症候ニ就テハホースレーノ說ニ隨ヒ尙ホ次ノ諸件ヲ記載セ
ン、曰ク反射亢進、痙攣及足痙攣、筋肉強直(殊ニ硬膜内腫瘍ニ於テ見ル所ナリ)則チ
是ナリ。

腫孔ノ大小及反應ハ脊髓第二胸神經ノ上部ニ於テ壓迫ヲ被ムリタルキ變化スルノ
ミ、然ルキハ腫孔ハ散大筋(交感神經)麻痺ノ爲メ他眼ノ腫孔ヨリ狭小ニシテ幾ント運
動スルコトナシ。此交感神經ノ腫孔纖維ハ世人ノ熟知スル如ク脊髓内ニ中樞(毛様脊髓

中樞ヲ有スルモノニシテ其中樞ハ則チ最下頸椎及第一胸椎ノ高處ニ在リ(フツチ)膀胱炎ト腎炎トヲ誘發スル膀胱麻痺ハ麻痺進行スルニ隨ヒ發生ス。血管運動性障礙(腫脹)ハ稍稀有ニシテ五十八例中僅カニ六回ノミ末期ニ及シテハ痔創及膀胱炎等發生スルヲ常トス、而シテ患者ハ多クハ瘦削、膿毒症或ハ腎炎ニ續發シタル尿毒症ノ爲メニ鬼籍ニ登ル。

腫瘍ハ脊椎管ノ廣袤ニ準シテ多クハ少レナリ、最モ屢ニ發生スルハ多クハ蜘蛛膜ヨリ生シ稍稀ニハ軟膜ヨリ發出シタル結締組織腫瘍トス。其脊髄ニ及ホス影響ハ極メテ多端ナリ。脊髄ノ軟化ハ硬膜外腫瘍ニ於ケルヨリ硬膜内腫瘍ニ屢ニ起ル。

脊椎管腫瘍ノ診斷ハ疾患尙ホ初期ニシテ疼痛症狀アルニ過キサル間ハ困難ナリ。診斷上樞要ナルハ上段ニ記載シタル如ク疼痛ノ常在及位置壓迫症狀即チ運動麻痺及知覺麻痺ノ發生トス。

脊髄ノ壓迫症候ヲ具ヘタル脊椎管即チ脊髄膜腫瘍ノ療法ハ椎弓ヲ截除(脊椎管開術)シテ脊椎管ヲ開キタル後腫瘍ヲ摘出スルニ在リ、此脊椎管開術ハ既ニハイステルカ案出シタル所ナリト雖モ今日ニ到ル迄僅カニ脊椎管ノ損傷殊ニ脊髄ノ壓迫性麻痺ヲ兼ネタル變形性ニ治療セシ折傷ニ行ヒシノミ(マースウエン、ラウエンスタイン、ルッケ等)之ヲ脊髄膜腫瘍ノ摘出ニ試ミテ奏功セシハホースレーヲ以テ嚆矢トス。

椎弓截除(脊椎管開術)

第一百五十五章

椎弓截除(所謂脊椎管開術) Die Resection der Wirbelbogen. (sog. Trepanation der Wirbelsäule).

椎弓截除則チ脊椎管開術ハ脊椎管並ニ脊髄ノ諸疾患及損傷例ヘハ脊髄ヲ壓迫スル折傷及脱臼ニ於テ脊椎管若シクハ脊髄中ヨリ骨片、異物ヲ抽除シ或ハ腫瘍ヲ摘出セントスル片等ニ行フモノトス。ダブリュー、トルボルンハ近世從來ノ報告ニ由リテ有益ナル論文(千八百八十九年倫敦グリフパン社刊行)ヲ編輯シ以テ近世外科ハ此領野ニ於テモ亦益々佳良ノ成績ヲ博スルヲ示セリ。

椎弓ノ截除所謂脊椎管開術ハ周密ナル防腐法ニ準據シテ次ノ如ク行フヘシ。則チ皮膚ハ當該棘狀突起ノ尖端ニ方リテ相當ニ截開ス。ホースレーハ然ル後堅牢ナル骨剪ヲ以テ除去セントスル椎弓ノ棘狀突起ヲ其根底ヨリ截斷セリ次テ縱截創ヨリ骨膜及筋肉ヲ椎弓ノ左右ニ向ヒテ扛起シ椎弓ハ鑿ヲ以テ横突起ノ近傍ニ於テ斷離ス。ホースレーハ鋸冠幾セント脊椎管ノ直徑ニ等シキ圓鋸ヲ用キ或ハ骨ノ一片ヲ鋸斷シタル後骨剪ヲ以テ分離ヲ完了セリ。骨片ハ極メテ小心除去セサルヘカラス一個或ハ數個ノ椎弓ヲ摘出シタル片ハ頗ル血管ニ富有ナル脂肪組織ト鬆韌ナル結締組織トヲ以テ掩ハレタル硬膜露出スヘシ。出血ヲ可成的制限スルニハ此脂肪組織及結締組織ヲ正中部位ニ於テ分割セサル可ラス。若シ必要ナル片ハ鉤鉤ヲ以テ脂肪組織ヲ側方ニ移シタル後

椎弓截除(所謂脊椎管開術)

鋸子ヲ以テ裸露シタル硬膜ヲ把リ其正中部ニ縱截ヲ施シテ之ヲ適宜ニ分割スヘシ。此硬膜ノ分割ハ硬膜及後索ノ器械的刺戟ニ由リ反射運動發シ易キハ患者ノ深麻酔ニ乘シテ行フヘシ、是レ反射運動ハ動モスレハ不幸ノ結果ヲ將來スレハナリ。此際多量ニ流出スル腦脊髄液ハ宜シク防腐性壓抵巾ヲ以テ拂拭スヘシ。然ル後ハ硬膜及脊髓ノ外觀、硬軟等ヲ精診セサル可ラス。若シ脊髓ノ前面ニ或ル異常例ヘハ新生物或ハ骨片、彈丸アルヲ想フキハ動脈瘤鏡ヲ小心脊髓ノ周圍ニ致スヘシ。ホースレーハ其患者ニ手術ヲ完了シタル後硬膜創ヲ縫合セシテ開放セリ。外創ニハ排膿管ヲ裝置シ縫接シ次テ廣潤ナル制腐的蓋護綑帶ヲ施ス。ライトハ截除シタル椎弓ヲ復ヒ癒シタリ。硬膜及後神經根ト創痕ノ深部トノ癒着ヨリ起ル疼痛ハ例ヘハ近時ホースレーカ手術シタル患者ニ於テハ遂ニ發セサリシ而シテ腫瘍及之ニ因スル苦痛ハ手術ニ由リ完全ニ且ツ永久的ニ癒ヘタリ。

知氏外科各論第五卷畢

明治二十八年十二月十五日印刷
同 年十二月十九日發行

正價金六拾錢

翻譯者

東京市日本橋區本石町二丁目七番地
田村 光 顯

翻譯者

東京市日本橋區竹川町二十番地後田方
安藤 慶 次 郎

翻譯者

東京市京橋區竹川町二十番地後田方
土 肥 慶 藏

發行者

東京市神田區鍛冶町二十二番地
大 柴 四 郎

印刷者

東京市日本橋區藥研堀町三十三番地
仁 科 衛

發行所

東京市神田區鍛冶町二十二番地
朝 香 屋 書 店

印刷所

東京市日本橋區藥研堀町三十三番地
厚 信 舍



知氏外科各論第五卷附

肆 書 捌 賣

東京市日本橋區馬喰町二丁目

島 村 利 助

同 市日本橋區通三丁目

丸 善 書 店

同 市本郷區湯島切通坂町

南 江 堂

同 市同 區春木町三丁目

半 田 屋 書 店

大坂市心齋橋通北久寶寺町角

三 木 佐 助

同 市心齋橋筋二丁目

松 村 九 兵 衛

京都市寺町通二條南

若 林 茂 一 郎

福岡市博多中島町

積 善 館 支 店

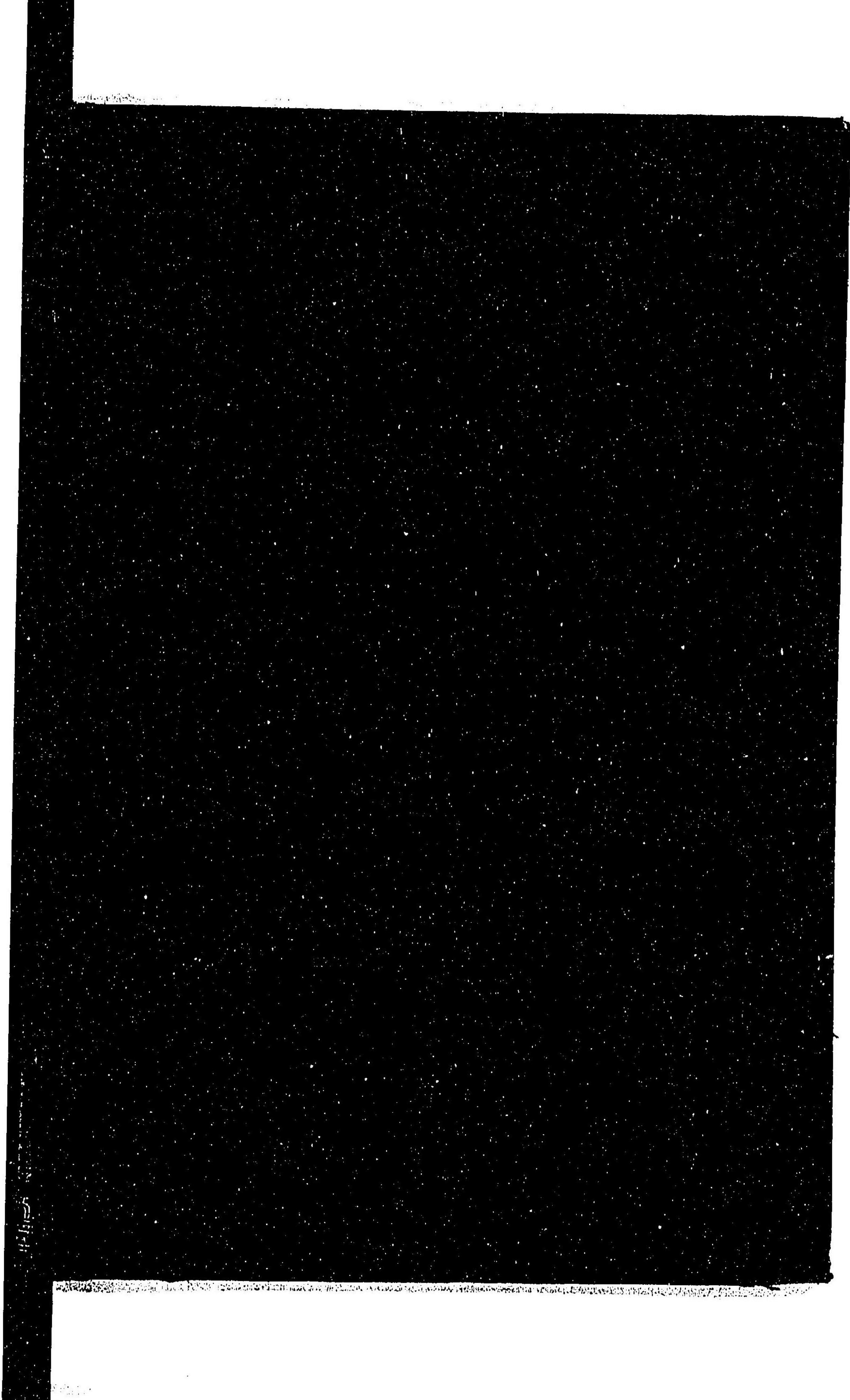
岡山市石崗町

渡 邊 千 代 治

名古屋市京町二丁目

野 崎 覺 次 郎

571
91



54
9

